



Simply Better Connections

VP3520

5入力2出力プレゼンマトリックス スイッチャー(4K60p、表示制御& シームレス切替機能対応) ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現等は公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がありますので、ご理解願います。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤り等がございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

適合性に関する宣言

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class Aの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCCによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案

FCC&CE規格に準拠するには、ユニットにシールド付きツイストペア(STP)ケーブルを使用する必要があります。



カナダ産業省による宣言

Class Aの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES-003 (A) / NMB-003 (A)

HDMI商標に関する宣言

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



PSE

本製品はPSEに準拠しています。



RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

ユーザー情報

ユーザーの皆様へ

このマニュアルに記載されているすべての情報、ドキュメント、および仕様は、製造元から事前に通知されることなく変更される場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者（メーカー、代理店、または販売店は除く）が、必要なすべてのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担するものとします。

このシステムの製造業者は、この装置に対する許可されていない変更によって引き起こされる無線および/またはTV干渉の責任を負いません。このような干渉を訂正することは、ユーザーの責任です。

製造業者は、動作前に正しい電圧設定が選択されていない場合には、このシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいことを確認してください。

同梱品

すべてのアイテムが正常に動作していることを確認してください。問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。

- ◆ 5入力2出力プレゼンマトリックススイッチャー(4K60p、表示制御 & シームレス切替機能対応) × 1
- ◆ IRレシーバー × 1
- ◆ IRリモコン × 1
- ◆ 電源ケーブル × 1
- ◆ 2極ターミナルブロック × 3
- ◆ 3極ターミナルブロック × 3
- ◆ 4極ターミナルブロック × 1
- ◆ ラックマウントキット × 1
- ◆ フットパッド(4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

目次

適合性に関する宣言	i
ユーザー情報	iii
ユーザーの皆様へ	iii
同梱品	iv
目次	v
本マニュアルについて	ix
マニュアル表記について	x
用語	x
第1章 はじめに	1
概要	1
特長	3
セットアップの計画	6
必要な機器	6
オプション機器	6
第2章 ハードウェアのセットアップ	7
ハードウェアの概要	7
フロントパネル	7
IRリモコン	10
マウント	11
ラックへのマウント	11
セットアップ	12
リレー接続	14
IRシリアル接続	18
第3章 ローカル操作	19
概要	19
操作に関する考慮事項	19

ソースの切替	19
表示モード	20
オーディオ設定	20
パネルロックの有効化/無効化	21
電源LEDの表示	22
ファンクションキーに対するリモコンのカスタマイズ	24
第4章 リモート操作	26
概要	26
デフォルトのネットワークとログイン設定	26
サポートされるWebブラウザ	27
Webコンソールでのログイン	27
メイン画面	28
全般設定	30
オーディオ & ビデオ設定	33
ビデオ制御設定	33
オーディオ制御設定	37
ディスプレイ制御設定	40
HDCP設定	44
ファンクションキー設定	46
システム設定	51
メンテナンス設定	51
ネットワーク設定	53
設定	55
第5章 CLIコマンド	60
概要	60
Telnet経由によるVP3520への接続	60
RS-232C経由によるVP3520への接続	61
コマンド構文	62
コマンド一覧	63

ポート番号	63
表示モードの設定	64
エコ機能の有効化または無効化	64
EDIDモードの設定	64
ミュート機能の設定	65
状態読み取り機能の設定	66
ユニットのリセット	66
スケーリングの設定	67
スタンバイモードの有効化または無効化	68
ソースの切替	68
切替モードの設定	69
音量の設定	69
ファン速度の設定	70
ユニットの再起動	70
オーディオマッピングの設定	71
第6章 ビデオプレゼンテーション コントロールアプリ	72
概要	72
対応システム	72
iOS版	74
メイン画面	74
会議への参加	76
コントロールパネルのスマートフォン	81
スタンバイモードの有効化	82
スタンバイモードの無効化	83
システムバージョンの確認	84
ビデオパネル	85
ディスプレイに対するソースの切替	85
ディスプレイの機能と設定	86
オーディオパネル	88
オーディオ出力設定	88
オーディオ入力設定	90
付録	94
安全にお使いいただくために	94
全般	94
ラックへのマウント	96

仕様	97
----	----

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、5入力2出力プレゼンマトリックススイッチャー（4K60p、表示制御&シームレス切替機能対応）およびリモートパッドを最大限に活用するために提供されています。VP3520のセットアップ、設定、作業の全般について説明しています。

第1章 はじめに: VP3520を紹介します。その目的、機能、利点、および設置に関する考慮事項について説明します。

第2章 ハードウェア設定: 5入力2出力プレゼンマトリックススイッチャーVP3520のパネルコンポーネントと、本製品を迅速かつ安全に設置するための手順について説明します。

第3章 ローカル作業: パネルのプッシュボタンとIRリモート制御を使用して、ローカルでのシステム設定の作業方法とアクセス方法について説明します。

第4章 リモート操作: システムWebインターフェースを介したリモート管理および制御タスクの詳細について説明します。

第5章 CLIコマンド: シリアルコントローラーを使用してVP3520を制御するために使用できる機能とRS-232Cコマンドの詳細を説明します。

第6章 ビデオプレゼンテーションコントロールアプリ: ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを介したシステム設定のリモート設定の詳細について説明します。

付録: 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

注意:

- ◆ 製品本体や、接続機器に対して損傷を与えないように、必ず、本マニュアルに記載されている内容に従ってセットアップや操作を行うようにしてください。
- ◆ 本書のリリース以降、製品に追加、改良、削除された機能や特徴が含まれている場合があります。最新の取扱説明書については、
<http://www.aten.com/global/en/>をご覧ください。

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- 押すべきキーを示します。入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- 矢印は操作の手順を示します。矢印は操作の手順を示します。例えば「スタート」→「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択することを意味します。
-  重要な情報を示しています。

用語

用語	説明
ファンタム電源	ファンタムは、かさばる外部電源ケーブルを使用せずに、コンデンサーマイクに電源を供給するように設計されています。
IR学習	IR学習機能は、煩雑さを抑えて、特別なリモート制御ソリューションを提供できるよう、制御コードの学習と復元に使用できます。
ダイナミックマイク	ダイナミックマイクは、ボリュームレベルが高いライブ設定でよく使用されます。
コンデンサーマイク	通常、スタジオ環境において、大きな音や耳障りな音ではなく、細かいニュアンスのある音をピックアップするために、コンデンサーマイクが使用されます。
シームレス切替	連続ビデオストリーム、リアルタイム切替、安定した信号伝送が実現できるよう、ゼロに近い秒単位の切替機能を備えています。

第1章 はじめに

概要

ATEN VP3520は、ビデオマトリックススイッチャー、4Kスケーラー、HDBaseTエクステンダー、オーディオDSP機能を1つのコンパクトなデバイスに統合したマルチ・イン・ワンのプレゼンテーションマトリックススイッチャーで、テーブルの下やラックに簡単に取り付けることができます。5入力2出力プレゼンマトリックススイッチャーVP3520は、4096 × 2160 / 3840 × 2160@60Hz (4:4:4) の4K60pビデオ解像度とHDRテクノロジーを特長としており、2台のディスプレイにまたがる鮮明な画像を保証します。4K@60Hz、HDMI、および HDCP 2.2をサポートするVP3520には、連続ビデオストリーム、リアルタイム制御、および安定した信号伝送を保証するFPGAマトリックス・アーキテクチャーを採用したシームレススイッチャーが搭載されています。VP3520は、高性能な4Kスケーラーを内蔵しているため、各種入力解像度を様々な出力表示解像度に簡単に変換し、2台のディスプレイ全体で最高のビデオと画質をユーザー側に提供します。

柔軟なオーディオ・ディエンベッド機能により、VP3520は様々なアプリケーション要件を満たすべく、オーディオ・ルーティングの柔軟性を備えて設計されています。簡単な設定で、HDMIオーディオを接続し、直接ディスプレイオーディオに切り替えることができます。より複雑な設定を行う場合は、お好みの室内オーディオ機器に接続できるよう、HDMIオーディオをオーディオ・ライン出力にディエンベッドすることができます。1系統のHDBaseTに5系統のデジタル入力と1系統のHDMI True4Kの独立した出力を装備したVP3520は、ユーザーが同時に2つのディスプレイを制御時間ようにし、プロフェッショナルなプレゼンテーションの効率とインパクトを向上させるように設計されています。VP3520は、ステレオライン出力ポート、同軸ポート、2か所の10Wパワーアンプを備えたアクティブスピーカーとパッシブスピーカーの両方を使用する柔軟性をユーザーに提供します。

コントロール機能に関しては、VP3520はフロントパネルのプッシュボタン、IRリモート制御、RS-232Cコマンド、WebベースのGUI、ATENビデオプレゼンター

ションコントロールアプリを介して複数のコントロールオプションをユーザーに提供します。さらに、VP3520は、TVディスプレイ、プロジェクター、モニターなどのAVデバイスの制御を可能にします。小会議室、教室、トレーニングルーム、または展示ギャラリーやホテルなどのその他のプレゼンテーション設定など、すべての会議スペースや教育環境に最適です。

特長

表示制御

- ◆ 自動表示ON/OFF制御 - CEC、IR、RS-232C、PJLinkを介した表示制御に対応。リレーポートを介してプロジェクタスクリーンを制御
- ◆ 柔軟な制御方法 - ソース検出またはフロントパネルにある4箇所のファンクションキーによってアクションを開始

デジタルAVのマトリックス切替

- ◆ 5系統のマルチフォーマット入力に対応 - 3系統のHDMI入力と2系統のHDBaseT入力
- ◆ 1系統のHDMI出力と1系統のHDBaseT出力
- ◆ オーディオ・エンベデッド機能 - ステレオオーディオは、ディスプレイ出力へのエンベデッドまたはステレオ出力への分離が可能
- ◆ オーディオ・ディエンベデッド機能 - HDMI/HDBaseTオーディオからステレオライン出力への抽出が可能
- ◆ オーディオDSP搭載 - 選択可能な48Vファンタム電源のマイク入力に対応。また、マイク入力をプログラムオーディオとミキシングし、ディスプレイ出力にエンベデッド可能
- ◆ マイク信号の検出時にはプログラムオーディオを自動的にボリュームダウン
- ◆ 自動切替機能 - 新しいソースが接続されると自動的に認識し切替を実行
- ◆ オーディオアンプ - ターミナルブロックコネクタースピーカー出力を備えた10Wパワーアンプを2本内蔵

HDビデオを最適に出力

- ◆ 解像度 - 最大4096 × 2160@60Hz (4:4:4) (HDMI) / 4096 × 2160@60Hz (4:2:0) (HDBaseT)
- ◆ 4K HDR対応
- ◆ 4Kスケーラー - 4Kビデオスケーラーを搭載し、入力解像度を最適な表

示解像度に変換

- ◆ シームレス切替 – 継続的なビデオストリーム、0秒に近いリアルタイムな切替、安定した信号送信が可能
- ◆ EDID Expert™ (EDIDエミュレーション) 機能搭載 – スムーズな電源投入と最適なビデオ品質のために自動/手動で適切なEDIDモードを選択可能
- ◆ HDMI、 HDCP 2.2準拠

汎用的で合理的な操作

- ◆ 複数の操作オプションを提供 – フロントパネルのプッシュボタン、IRリモコン、RS-232C、インターネット経由でのWeb GUI操作
- ◆ デバイスのステータスを表示し、ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを介して迅速かつ機敏な方法で制御
- ◆ RS-232CおよびIRチャネル – 追加ケーブルなしでHDBaseT接続を介してAV機器を制御
- ◆ スタンバイモード対応により省電力と高速起動を実現
- ◆ CEC(Consumer Electronics Control)対応

注意:

ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリの詳細については、そのアプリのユーザーマニュアルを参照してください。

ケーブル1本による信号延長

- ◆ Power over HDBaseT (POH) 対応 – ツイストペアケーブルで、HDBaseT In/OutからPOH対応デバイスに長距離給電が可能
- ◆ 長距離伝送 – デジタルAV信号、双方向RS-232CおよびIR制御信号を、HDBaseT出力ポート経由でCat 6/6aケーブルまたはATEN製Cat 6ケーブル2L-2910を使って最大70m*延長

注意:

製品本体のHDBaseT入力とHDBaseT出力の各ポートを使用した場

合に対応可能。このとき、入力機器～VP3520およびVP3520～出力機器への各距離は、それぞれ最大70mとなります。

セットアップの計画

必要な機器

VP3520をセットアップする前に、以下の機器を準備してください。

- ◆ HDMIポートを搭載した入力デバイス(最大3台)とHDBaseTポートを装備した入力デバイス(最大2台)
- ◆ 最大2台のディスプレイデバイス(1台はHDMIポートを搭載、もう1台はHDBaseTポートを搭載)

オプション機器

必要に応じて、以下の機器を準備してください。

- ◆ マイク×1
- ◆ メディアプレーヤー×1
- ◆ アクティブスピーカー×1
- ◆ 信号延長用にHDBaseTポートを搭載したビデオトランスミッターおよびレシーバー×各1
- ◆ VP3520をWebコンソール経由でリモート管理するためのネットワークスイッチ接続用イーサネットケーブル×1
- ◆ RS-232CまたはTelnetをサポートするホストコンピューター、ATENコントローラー、またはサードパーティー製コントロールシステム×1
- ◆ マウントキット
- ◆ ラックマウントキット

第2章

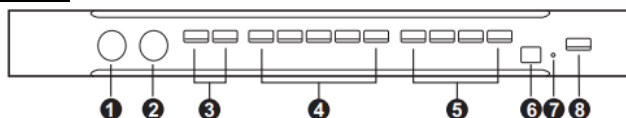
ハードウェアのセットアップ



1. p.94「安全にお使いいただくために」で、このデバイスの設置に関する安全上の注意を確認してください。
2. 必要な機器すべての接続が終わるまで、VP3520に電源を入れないでください。

ハードウェアの概要

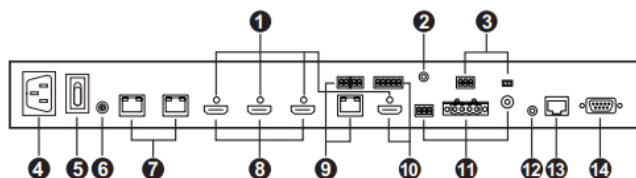
フロントパネル



番号	名称	説明
1	マイク音量調整	ツマミを使用してマイクの音量を調整します。
2	全体的な音量調整	ツマミを使用して、すべてのオーディオ出力の音量を調整します。
3	ディスプレイ選択 プッシュボタン	プッシュボタンを押して、使用するディスプレイを選択します。選択されているディスプレイのプッシュボタンはオレンジ色に点灯します。
4	電源選択 プッシュボタン	プッシュボタンを押すと、選択されたディスプレイに対してソースを選択します。選択したソースのプッシュボタンは緑色に点灯します。
5	機能選択 プッシュボタン	プッシュボタンを押すと、接続されたディスプレイデバイスのプリセットIRリモート制御シーケンスが有効になります。p.24「ファンクションキーに対するリモコンのカスタマイズ」を参照してください。
6	IR学習パネル	接続されたディスプレイからIRリモコンをIR学習パネルに照準を合わせて操作すると、機能選択プッシュボタン用にリモート制御ソリューションをカスタマイズするためのコードを学習します。p.24「ファンクションキーに対するリモコンのカスタマイズ」を参照してください。
7	IR学習LED	IR学習LEDが点滅して、その状態を示します。詳細については、p.24「ファンクションキーに対するリモコンのカスタマイズ」を参照してください。

8	電源プッシュボタン	VP3520の電源ON/OFF、スタンバイモードの有効/無効を設定します。詳細については、p.22「電源LEDの表示」を参照してください。
---	-----------	---

リアパネル

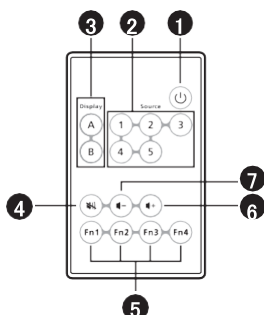


番号	名称	説明
1	ケーブルロックネジ ATEN LockPro™	HDMIケーブルを最も簡単な方法でHDMIデバイスに固定することができるユニバーサルHDMIケーブルロックです。
2	オーディオ入力ポート	ライン入力の音源を受信します。
3	マイク入力ポート	マイクする。ダイナミックマイクにファンタム電源を使用するには、PHANTOMスイッチをONに設定します。
4	電源ソケット	VP3520に電源を供給するための電源コードを接続します。
5	電源スイッチ	VP3520への電源供給を有効または無効にします。
6	グラウンドターミナル	VP3520を接地して、サージや静電気による損傷を防止します。
7	ソース1、2	HDBaseTポートを搭載したTxデバイスを介して、離れた場所にあるソースデバイスに接続します。 注意: これらのHDBaseT入力ポートはPoH(Power over HDBaseT)をサポートします。
8	ソース3、4、5	HDMIケーブルでHDMIソースデバイスに接続します。
9	出力/ディスプレイA	離れた場所にあるディスプレイに接続されているRxデバイスに接続します。 注意: これらのHDBaseT出力ポートはPoH(Power over HDBaseT)をサポートします。
	HDBaseT 出力ポート	
	リレーポート1&2	プロジェクタースクリーンに接続して、スクリーンを上げ下げします。
10	出力/ディスプレイB	HDMI対応のディスプレイデバイスを接続します。
	HDMI出力ポート	
	RS-232Cポート	RS-232Cターミナルブロックを使用して、RS-232Cシリアルコマンド経由で制御するためにディスプレイに接続します。
	IRポート	RS-232Cターミナルブロックを使用して、IRリモコン経由でコントロール用ディスプレイに接続します。

番号	名称	説明
11	ステレオ ライン出力ポート	アクティブスピーカーのセットに接続します。
	Lo-Z出力ポート	アンプに接続します。
	同軸出力ポート	同軸入力デバイスに接続します。
12	IRレシーバーポート	IRレシーバーに接続して、IRリモート制御からIR信号を受信します。
13	イーサネットポート	イーサネットケーブルを介してネットワークスイッチに接続し、Web コンソール経由でのリモート操作を可能にします。
14	RS-232C シリアルポート	ハードウェアまたはソフトウェアコントローラーに接続してシリアルデータを送信します。

IRリモコン

VP3520を操作するには、付属のIRレシーバーをVP3520のリアパネルのIRレシーバーポートに挿入します。



番号	ボタン	説明
1	ON/OFF	VP3520の電源をONにし、スタンバイモードを有効/無効にするために使用します。詳細については、p.22「電源LEDの表示」を参照してください。
2	ソース	ソースボタンを押すと、選択されたディスプレイが、そのソースに切り替わります。
3	ディスプレイ	ディスプレイボタンを押すと、ディスプレイが選択されます。
4	ミュート	ボタンを押すと、すべてのディスプレイとスピーカーがミュートになります。
5	ファンクション	ファンクションブッシュボタンを押すと、接続されたディスプレイを制御するために事前設定されたIRリモートコマンドを選択します。
6	音量UP	ボタンを押すと、音量を上げます。
7	音量DOWN	ボタンを押すと、音量を下げます。

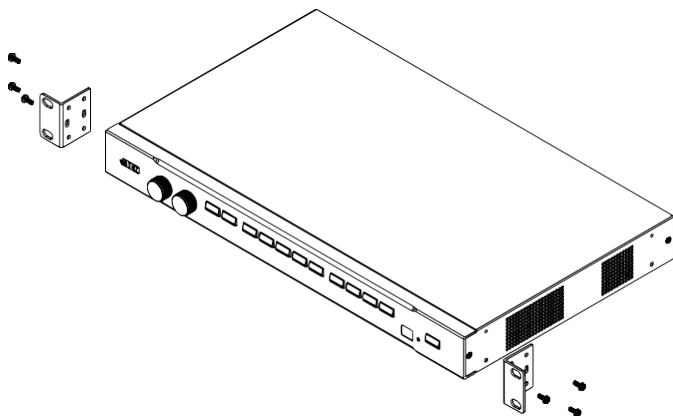
マウント

ラックへのマウント

VP3520は、19インチのシステムラックに1Uサイズで取り付けことができます。ローカル設定と作業のためにフロントパネルに簡単にアクセスできるようにするには、ユニットのフロントパネル側が外側に向くようにラックに取り付けてください。

VP3520をラックに取り付けるには、以下の手順に従って作業を行ってください。

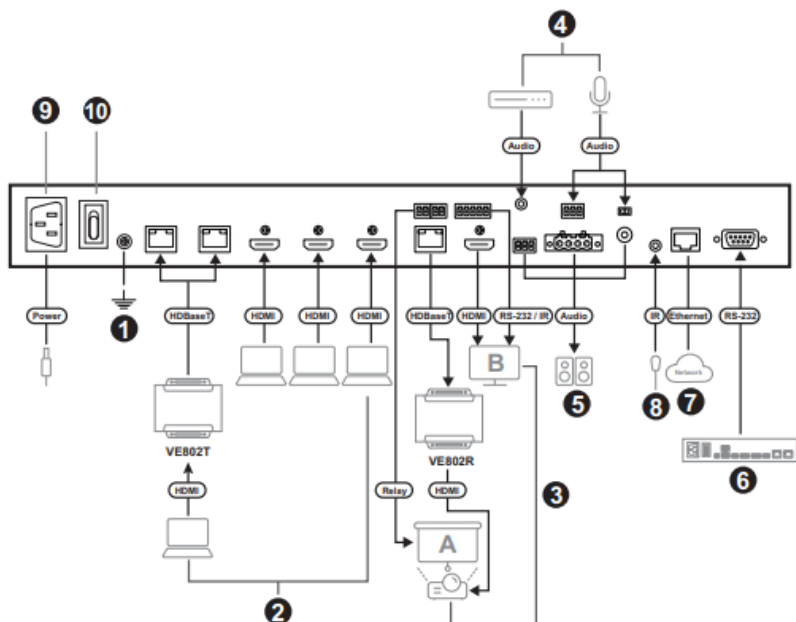
1. マウントキットに付属のM3プラス六角ネジを使用して、ラックマウントブラケットをユニットに固定してください。



2. ユニット本体をラックのフロント側に固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。
3. ご自身で用意されたネジを使用して取り付けブラケットをラックに固定してください。

セットアップ

以下の手順に従って、VP3520に対し、ソース、ディスプレイ、その他の機器を安全にセットアップしてください。



1. 接地線の片方の端をグランドターミナルに接続し、もう片方の端を適切な接地物に接続することで、製品本体をアース接続してください。

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

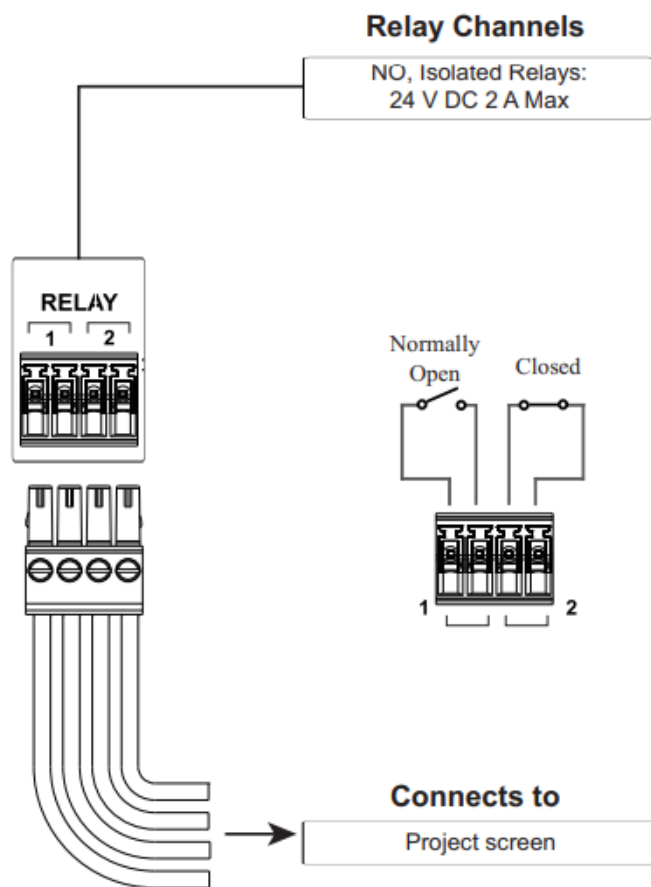
2. 最大5台のビデオソースをユニットに接続してください。
 - ◆ ビデオエクステンダーを介してビデオソース機器を接続するには、ビデオエクステンダー（例：VE802T）をイーサネットケーブルでVP3520に接続してください。
 - ◆ HDMIソースデバイスを接続するには、ソースデバイスをHDMIケーブルでVP3520に接続してください。最大3台のHDMIソースデバイス

を接続できます。

3. 最大2台のディスプレイをユニットに接続してください。
 - ◆ 離れた場所にディスプレイを設置するには、適切なRxデバイス（例：VE802R）をイーサネットケーブルでVP3520に接続し、そこにディスプレイデバイス（例：プロジェクター）を接続してください。接続されたプロジェクタースクリーンの上げ下げをリモートから制御するには、スクリーンをリレーポートに接続してください。配線については、p.14「リレー接続」を参照してください。
 - ◆ HDMIケーブルで本機とHDMIディスプレイを接続してください。接続したディスプレイをリモート制御するには、RS-232CおよびIRポートをディスプレイに接続してください。配線については、p.17「RS-232Cシリアル接続」、およびp.18「IRシリアル接続」を参照してください。
4. （オプション）独立したオーディオを供給するには、オーディオソースデバイス（例：メディアプレーヤー）またはマイクをVP3520に接続してください。
5. （オプション）適切な出力ポートを介してスピーカーをVP3520に接続してください。
6. （オプション）RS-232Cコマンドでユニットの設定を行うには、ハードウェアコントローラー（例：ATENコントロールボックスなど）をVP3520に接続してください。
7. （オプション）Webインターフェースへのアクセスを許可するには、ネットワークスイッチをイーサネットケーブルでVP3520に接続してください。
8. （オプション）IRリモコンでVP3520を制御するには、IRレシーバーをVP3520に接続してください。
9. 電源ケーブルを電源ソケットに差し込んでください。
10. 電源スイッチをONにしてください。
11. 電源プッシュボタンを押して、VP3520の電源をONにしてください。
12. 接続されたすべてのデバイスに対して電源を入れてください。

リレー接続

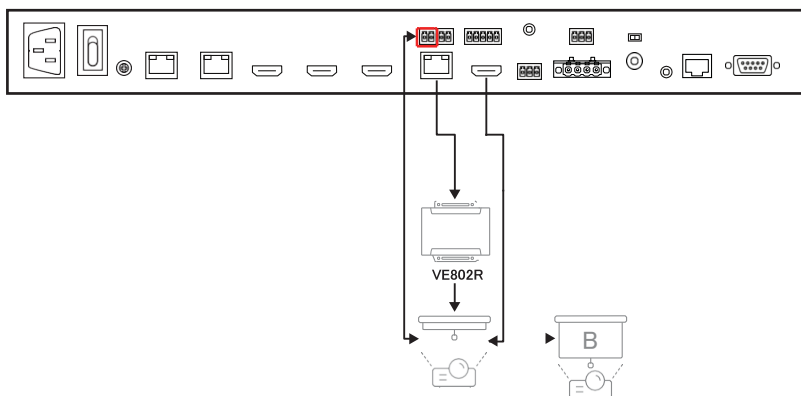
これら2つのリレーチャンネルは、プロジェクタースクリーンを制御するための接続を提供します。各リレーは、デフォルトではノーマルオープンです。



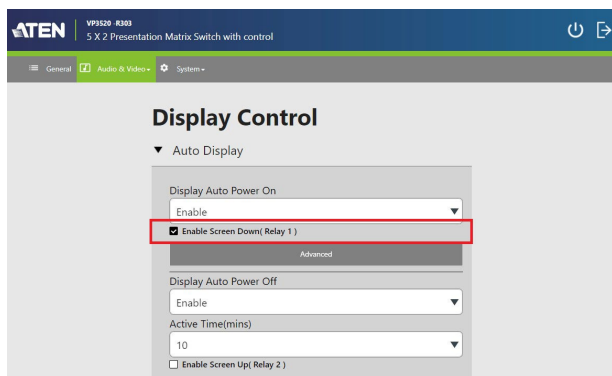
プロジェクタースクリーンに対する操作設定

ソースデバイスの検出によってプロジェクタースクリーンを自動的に上げ下げするには、以下の手順に従って作業を行ってください。

1. イーサネットケーブルを使用して、適切なRxデバイス(例:VE802R)をVP3520に接続してください。これにより、ディスプレイデバイス(例:プロジェクター)が接続されます。
2. VP3520が入力ソース機器を検出したときに自動的にスクリーンを下げるようにするには、以下の手順に従ってください。
 - a) 画面をユニットのリレーポート1に接続してください。

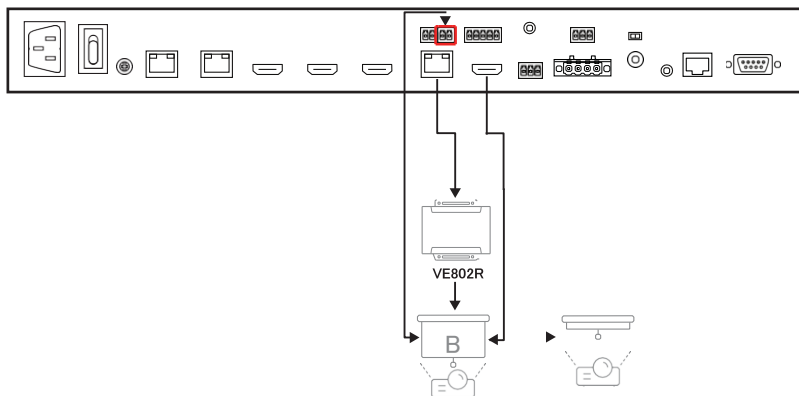


- b) Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」>「ディスプレイの制御」に移動して、☐ **Enable Screen Up(Relay 1)** の項目をチェックしてください。

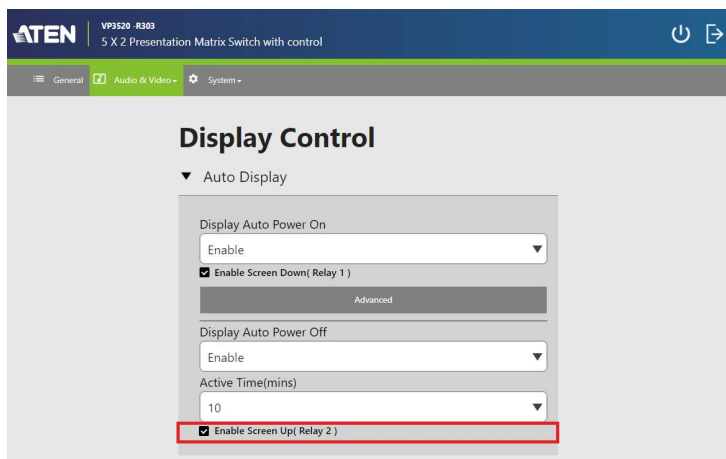


3. 入力ソースデバイスが取り外されてから、VP3520によって検出されない状態が一定時間続いた場合に、スクリーンが自動的に巻き上がるようにするには、以下の手順に従って作業を行ってください。

a) 本機のリレーポート2にスクリーンを接続してください。

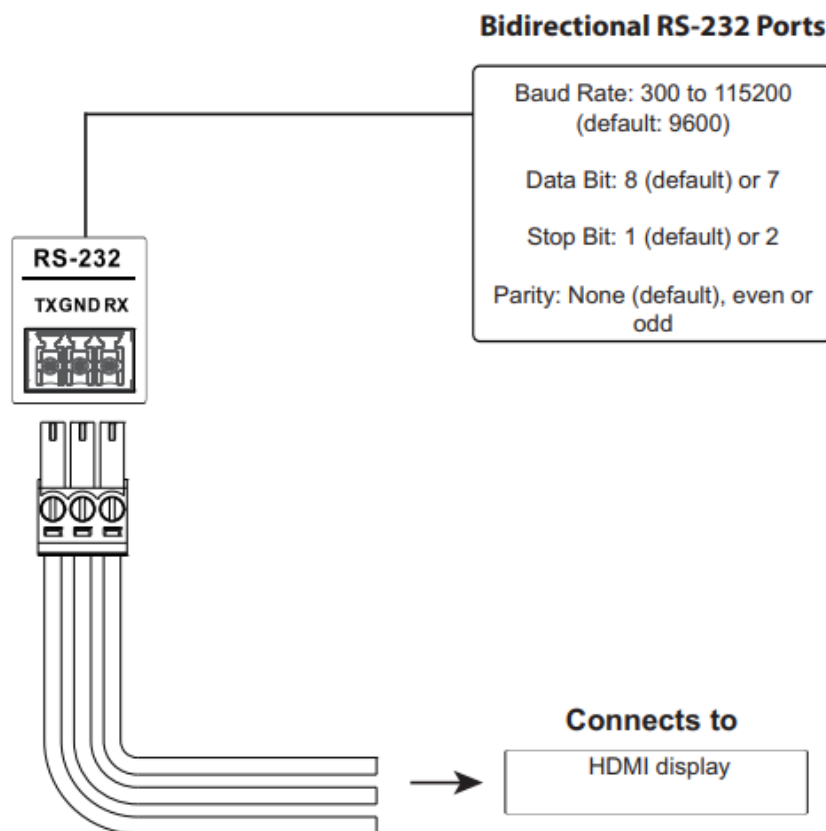


- b) Webコンソールにログインし、「オーディオ&ビデオ」>「ディスプレイの制御」に移動して、☐ **Enable Screen Up(Relay 2)** の項目をチェックしてください。



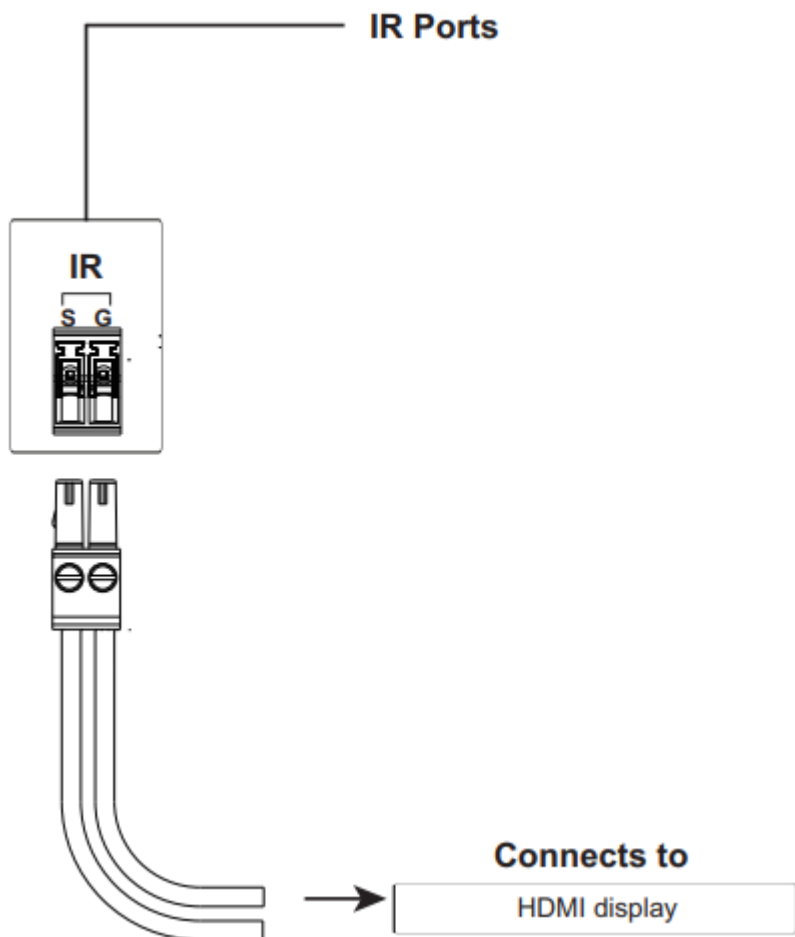
RS-232Cシリアル接続

VP3520の双方向RS-232Cポートは、接続されたHDMIディスプレイのシリアル制御を提供します。双方向RS-232C制御の場合、送信、受信、およびグラウンドの各ピンはVP3520とHDMIディスプレイの両方に配線する必要があります。配線の詳細については、HDMIディスプレイのマニュアルを参照してください。



IRシリアル接続

VP3520のIRポートは、接続されたHDMIディスプレイのIRリモート制御を提供します。



第3章

ローカル操作

概要

この章では、フロントパネルとIRリモコンを使用したVP3520の操作について説明します。

注意:

手順の説明において、「プッシュボタン」という文言は、フロントパネルにあるプッシュボタンを、また、「ボタン」という文言は、IRリモコンにあるボタンを、それぞれ意味しています。

操作に関する考慮事項

- ♦ IRリモコンを使用する場合は、必ずIRレシーバー（同梱品）をVP3520に接続してください。フロントパネルの学習パネルはリモコン操作を受信できません。
- ♦ IRリモコンを使用してスムーズな操作を行うには、IRリモコンを有効範囲（6m）内で使用し、リモコンとVP3520に接続されているIRレシーバーの間に遮るものがないことを確認してください。

ソースの切替

ディスプレイのビデオソースを切り替えるには:

1. **ディスプレイ選択**プッシュボタン（VP3520フロントパネル）/ ボタン（IRリモコン）を押して、ディスプレイデバイスを選択してください。そうすると、選択したディスプレイのプッシュボタン（VP3520フロントパネル）がオレンジ色に点灯します。
2. **ソース選択**プッシュボタン（VP3520フロントパネル）/ ボタン（IRリモコン）を押して、電源を割り当ててください。選択したソースのプッシュボタン

(VP3520フロントパネル)がオレンジ色に点灯します。

注意:

ソースを切り替えると、OSDの左上隅にが5秒間表示されます。これは、スケーリングなしの元のソースからの解像度です。

表示モード

VP3520は、以下の表示モードに対応しています:

- ◆ **マトリックスモード**():有効にすると、AVソースを個別に設定し、異なる出力を表示することができます。
- ◆ **ミラーモード**():有効にすると、ディスプレイBはディスプレイAに割り当てられたAVソースを使用し、同じ内容を表示します。

オーディオ設定

- ◆ VP3520のすべてのオーディオ出力の音量を調整するには、フロントパネルの音量用ツマミ、またはIRリモコンの音量UPまたは音量DOWNの各ボタンを使用してください。
- ◆ VP3520でマイクや独立したオーディオソースの音量を調整するには、フロントパネルのマイク用ツマミを使用してください。
- ◆ すべてのオーディオ出力(ディスプレイとスピーカー)を消音にするには、フロントパネルの音量用ツマミを押すか、IRリモコンの消音ボタンを押してください。

パネルロックの有効化/無効化

フロントパネルの誤操作でシステム設定が変更されるのを防ぐために、機能選択プッシュボタン4(Fn4)を押して、Webコンソール(「全般」>「基本」>「パネル自動ロック」)から自動ロックのアイドル時間を設定すると、パネルをロックできます。パネルロックの有効/無効および対応するLED表示については、下表を参照してください。

タスク	ロックLED  (モードプッシュボタン)
フロントパネルをロックするには、機能選択プッシュボタン4(Fn4)を約3秒間押し続けます。	赤色に点灯
フロントパネルのロックを解除するには、機能選択プッシュボタン4(Fn4)を約3秒間押し続けます。	暗い色で点灯
パネルロック時にフロントパネルのいずれかのプッシュボタン/ツマミが調整されている場合。	3回点滅

注意:

機能選択プッシュボタン4(Fn4)を使用してパネルをロックした場合は、機能選択プッシュボタン4(Fn4)だけを押してロックを解除してください。この場合、Webコンソールからパネルロックを無効にしても効果はありません。

電源LEDの表示

電源プッシュボタンには、VP3520の電源状態を示すLEDが内蔵されています。各LED表示の状態とサポートされるタスクについては、下表を参照してください。

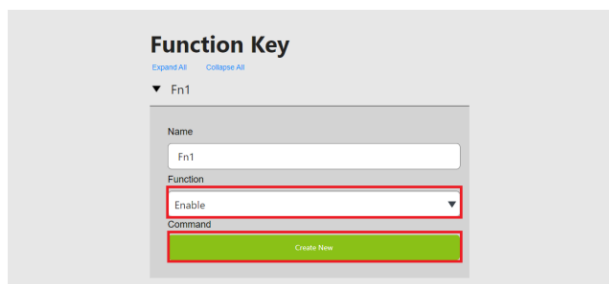
LED表示 (電源プッシュボタン)	VP3520の状態	タスク
暗い色で点灯	VP3520の電源はOFFです。	VP3520の電源を入れるには、 電源プッシュボタン (VP3520フロントパネル)/ 電源ボタン (IRリモコン)を1回押してください。
オレンジ色に点滅	VP3520はシステム情報を読み込んでいます。	本体の起動準備が終わるまで待機してください。
オレンジ色	VP3520はスタンバイモードです。	スタンバイモードは、システムの一部をシャットダウンする省電力モードで、必要ときに素早く操作を再開できます。 VP3520を復帰させるには、 電源プッシュボタン (VP3520フロントパネル)/ 電源ボタン (IRリモコン)を1回押してください。 注意: スタンバイモードのときにVP3520の電源をOFFにするには、まずユニットを復帰させてから、次のエントリーの手順に従ってユニットの電源をOFFにしてください。
グリーンに点滅	VP3520はリモート制御プロセスの実行中で、ビジー状態です。	リモート制御プロセスの実行が終了するまで待機してください。

LED表示 (電源プッシュボタン)	VP3520 状態	タスク
グリーン	VP3520は起動準備完了状態です。	◆ スタンバイモードにして省電力を実行するには、電源プッシュボタン(VP3520フロントパネル)/ 電源ボタン(IRリモコン)を1回押してください。 ◆ 本機の電源をOFFにするには: (1) 電源プッシュボタンを3秒間押し続けてください。OSDに確認メッセージが表示されます。 (2) 電源プッシュボタンを1回押してください。VP3520の電源が切れます。 注意:リモコンを使用してVP3520の電源を切ることはできません。

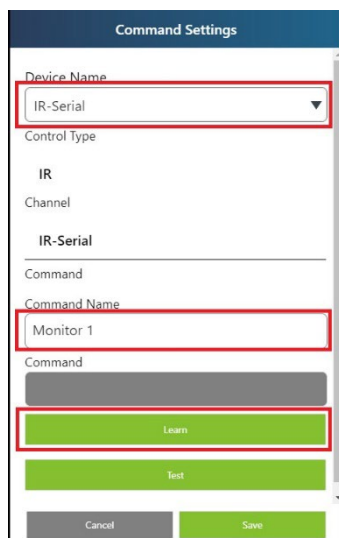
ファンクションキーに対するリモコンのカスタマイズ

機能選択プッシュボタンを使用して接続されたディスプレイデバイスを制御するには、次の手順に従ってファンクションキーを設定してください。

1. Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」>「ファンクションキー」に移動してください。
2. ドロップダウンメニューを使用して「有効」を選択し、**Create New** をクリックしてください。



3. ポップアップダイアログボックスで、ドロップダウンメニューから「IRシリアル」または「IR HDBT出力」を選択し、コマンド名を入力したら、**Learn** をクリックしてください。そうすると、IR学習モードになります。



4. ユニットのフロントパネルにあるIR学習LEDが10秒間点滅します。ディスプレイのIRリモコンをユニットのIR学習LEDに向けてください。カウントダウンが終了するまで、ディスプレイのIRリモコンから学習したいボタンを押し続けてください。ファンクションキーごとに最大10個のコマンドを作成できます。
5. **Test** をクリックして記録されたコマンドのテストを行ったら、**Save** をクリックしてください。

第4章

リモート操作

概要

この章では、VP3520の操作や設定をWebコンソール経由でリモートから行う方法について説明します。

デフォルトのネットワークとログイン設定

VP3520は、以下のネットワーク設定とログイン認証情報をデフォルト設定として使用します。

◆ デフォルトのネットワーク設定

ネットワークパラメーター	デフォルト設定
IPアドレス	192.168.0.60
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.1
HTTPポート	80

注意:

VP3520がDHCPをサポートするルーターに接続されている場合、ネットワークに接続するとすぐに動的IPアドレスがVP3520に割り当てられます。IPアドレスを確認するには、RS-232Cシリアルコントローラー経由で読み取りコマンドを送信して検索してください。詳細については、第5章「CLIコマンド」を参照してください。

◆ デフォルトのログイン認証情報

ログイン認証情報	デフォルト設定	制限
ユーザーネーム	administrator	特殊文字のない5～30文字(大文字と小文字は区別されません)
パスワード	password	

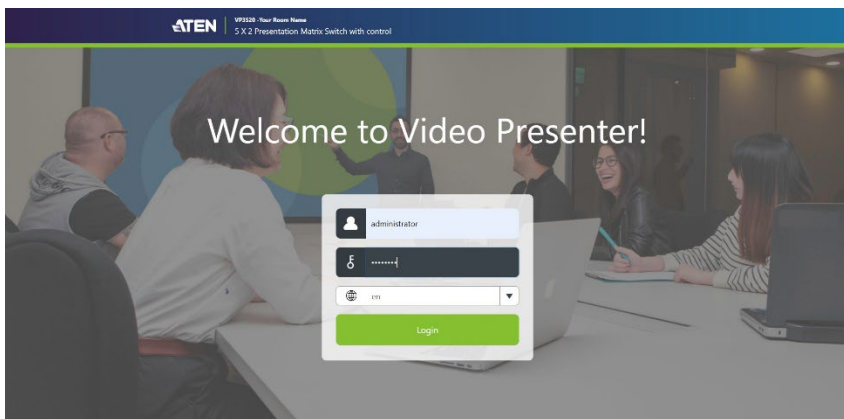
サポートされるWebブラウザ

VP3520は、以下のWebブラウザとOSを介したWeb UIへのアクセスをサポートしています：

OS	Webブラウザ	対応バージョン
Windows 10 x64	Edge	85.0.564.67 x64
Windows 10 x64	Firefox	88.0 x64
Windows 10 x64	Chrome	90.0.4430.93 x64
Ubuntu 20.04 x64	Chrome	90.0.4430.93 x64
Solaris 11.4 x64	Firefox	52.9.0_x32
Windows 10 x64_1703_Enterprise	QQ	10.8
Windows 10 x64_1703_Enterprise	360	13.1.1302.0

Webコンソールでのログイン

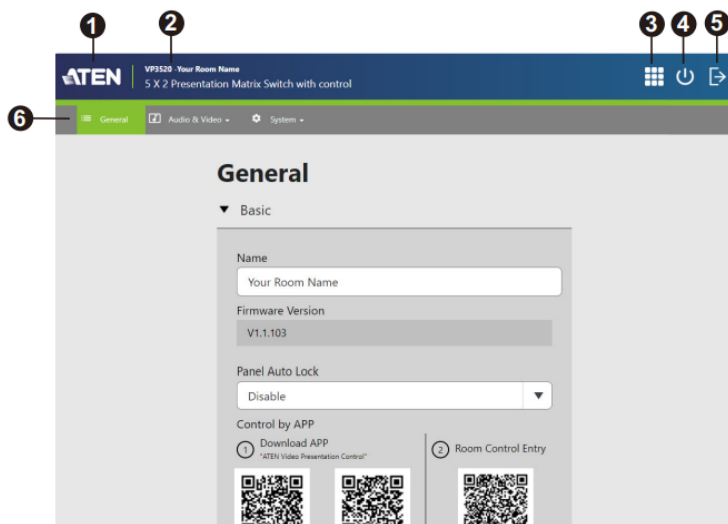
1. Webブラウザで、VP3520のIPアドレスを入力してください。このような画面が表示されます。



2. 「ユーザーネーム」欄に「administrator」と入力し、その下に、このアカウントのパスワードを入力してください。
3. 「ログイン」をクリックしてください。メイン画面が表示されます。

メイン画面

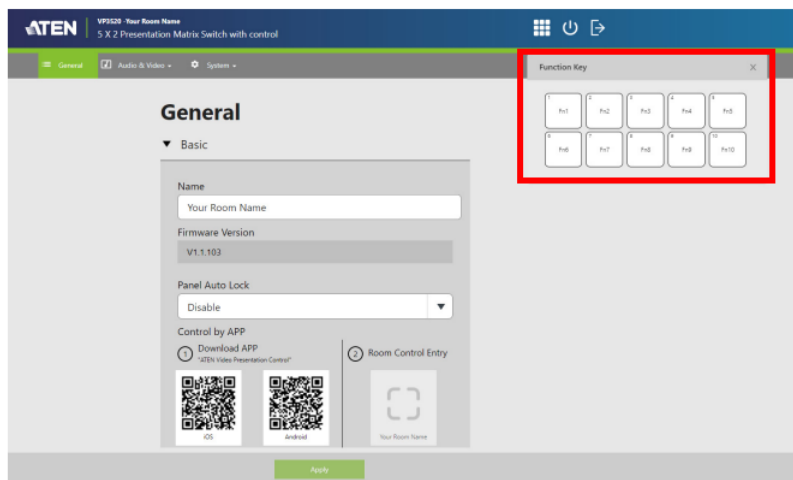
VP3520のインターフェースは、ログインすると、デフォルトでメイン画面に遷移します。Webコンソールの概要については、下の図と表を参照してください。



番号	要素	説明
1		ATENのロゴをクリックすると、ATENの公式Webサイトにアクセスします。
2	デバイス情報	デバイスのモデルと名前を示します。
3		クリックすると、簡単に制御できるようにファンクションキーの一覧が呼び出されます。p.29「ファンクションキー」を参照してください。
4		このアイコンをクリックすると、スタンバイモード(システムの一部をシャットダウンする省電力モード)が有効になるため、ユーザーは必要ときに素早く操作を再開できます。
5		アイコンをクリックすると、Webコンソールからログアウトします。
6	設定タブ	タブをクリックすると、別の設定カテゴリに切り替わります。

ファンクションキー

簡単に操作できるようにファンクションキー一覧を呼び出すには、メイン画面から  をクリックするだけです。下図のようなファンクションキーの一覧が表示されます。



ファンクションキー一覧を非表示にするには、 をクリックしてください。

全般設定

「全般」画面には、デバイス名、パネルロック、EDID、ログインパスワードなどの設定が含まれます。全般設定にアクセスするには、Webコンソールにログインしてください。そうすると、画面はデフォルトでこのページに遷移します。

ATEN

VP3520 Your Room Name
5 X 2 Presentation Matrix Switch with control



General

Audio & Video

System

General

▼ Basic

Name

Your Room Name

Firmware Version

V1.1.103

Panel Auto Lock

Disable

Control by APP

1 Download APP
"ATEN Video Presentation Control"



iOS

Download Image



Android

Download Image

2 Room Control Entry



Your Room Name

Download Image

EDID

Display A

▼ Change Password

Administrator

Username

administrator

Password

Confirm Password

Basic User

Username

123456

Password

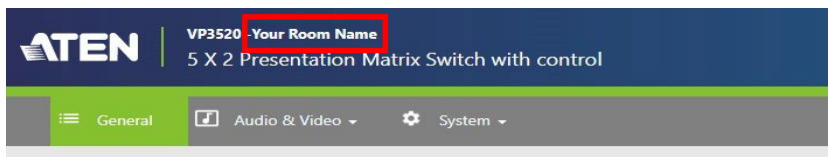
Confirm Password

Apply

30

◆ 基本

- ◆ **名前:** VP3520の名前を入力します。有効な名前の長さは30文字以内で設定してください。また、次の特殊文字「:<>[]()*&*+=?@/|¥',;"/」は使用しないでください。この名前は、Webコンソールにおいて、モデル名のすぐ後に表示されます:



- ◆ **ファームウェア:** VP3520のファームウェアバージョンを示します。
- ◆ **パネル自動ロック:** フロントパネルをロックするアイドル時間を設定します。
- ◆ **APPで制御:** iOSとAndroidの両方のバージョンのATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリのQRコード、および参加者の部屋制御エントリーQRコードをダウンロードできます。
- ◆ **EDID**
 - ◇ **ディスプレイA:** 接続されたソースにディスプレイAのEDIDを送信するモードです。
 - ◇ **ディスプレイB:** 接続されたソースにディスプレイBのEDIDを送信するモードです。
 - ◇ **ATENデフォルト:** このモードでは、接続されたソースにATENプリセットのEDIDが送信されます。
 - ◇ **リミックス:** 接続されたソースに、接続ディスプレイの最適なEDIDを送信します。

◆ パスワード変更

- ◆ **管理者:** 管理者アカウントは、Webコンソールにおけるすべての設定にアクセスできます。デフォルトのパスワードは「administrator」です。
- ◆ **基本ユーザー:** 基本ユーザーのアカウントは、Webコンソールのオーディオ制御とビデオ制御にアクセスできます。

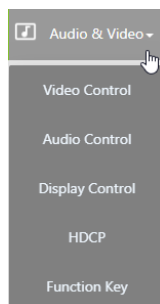
基本的なユーザーアカウントを作成するには、ここでユーザーネームとパスワードの項目を指定してください。

注意:

有効なパスワード(アドミニストレーターまたは基本ユーザーのアカウント用)は、大文字と小文字が区別されません。5～16文字の長さで設定してください。また、スペースや特殊文字は使用しないでください。

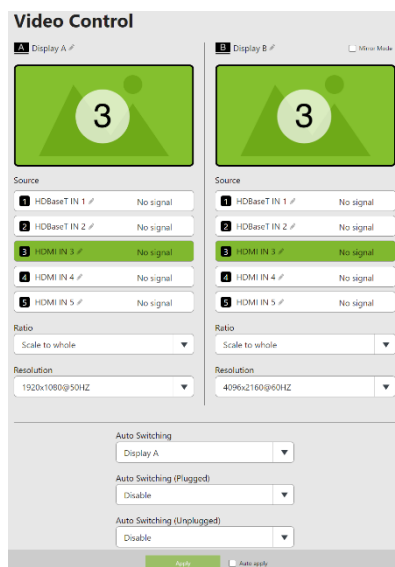
オーディオ & ビデオ設定

 **Audio & Video** をクリックすると、「オーディオ & ビデオ設定」で利用可能なオプションのリストが展開されます。



ビデオ制御設定

ビデオ制御画面を使用すると、ビデオソースの割り当てや、ビデオ設定を行うことができます。ビデオ制御画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」>「ビデオ制御」に移動してください。

A screenshot of the 'Video Control' web interface. The interface is divided into two main sections, 'Display A' and 'Display B'. Each section has a video preview window showing a green screen with a large number '3'. Below each preview is a 'Source' list with five options: 'HDBaseT IN 1', 'HDBaseT IN 2', 'HDMI IN 3', 'HDMI IN 4', and 'HDMI IN 5'. The 'HDMI IN 3' option is selected for both displays. Below the source list are 'Ratio' and 'Resolution' settings. The 'Ratio' is set to 'Scale to whole' and the 'Resolution' is set to '1920x1080@50HZ' for Display A, and '4096x2160@60HZ' for Display B. At the bottom, there are three 'Auto Switching' settings: 'Display A', 'Auto Switching (Plugged)', and 'Auto Switching (Unplugged)', all set to 'Disable'. An 'Apply' button and an 'Auto apply' checkbox are at the bottom right.

- ◆ **ディスプレイA/ディスプレイB:** 現在選択されているソースのプレビューが表示され、プレビューの中央にソース番号が表示されます。 をクリックするとソースの名前を変更することができます。
- ◆ **ミラーモード:** ディスプレイBでディスプレイAと同じビデオコンテンツを表示するには、このオプションを選択します。
- ◆ **ソース:** すべてのソースポートと現在割り当てられているソース(緑色で表示)の接続ステータスを一覧表示します。
 - ディスプレイのソースを切り替えるには、一覧表示されているソースのいずれかをクリックしてください。そうすると、割り当てられたソースが緑色で強調表示されます。
 - ソースの名前を変更するには、 をクリックしてください。
- ◆ **比率:**
 - **全体に合わせる:** ディスプレイの四辺にぴったり合うようにビデオを拡張します。
 - **自動調整:** コンテンツを切り捨てずに、ディスプレイに合わせてビデオを相対的に調整します。これにより、画面の上下または左右のいずれかに何らかの空白が残る場合があります。
 - **自動カット:** ビデオをディスプレイいっぱいに合わせて相対的に拡大/縮小します。表示範囲外になったコンテンツは切り捨てられます。
- ◆ **解像度:** ドロップダウンリストをクリックして、ディスプレイデバイスの解像度とリフレッシュレート設定を選択します。この項目は、ディスプレイがVP3520に接続されている場合にのみ使用できます。接続されたディスプレイに対して正しいディスプレイ解像度を選択してください。選択しないと、ディスプレイにコンテンツが表示されません。

560x360@60HZ
720x576@50HZ
768x480@60HZ
800x600@60HZ
1024x768@60HZ
1280x720@50HZ
1280x720@60HZ
1280x800@60HZ
1280x1024@60HZ
1366x768@60Hz
1400x1050@60HZ
1600x900@60HZ
1600x1200@60HZ
1920x1080@30HZ
1920x1080@50HZ
1920x1080@60HZ
1920x1200@60HZ
2560x1080@60HZ
3440x1440@50HZ
3840x2160@24HZ
3840x2160@25HZ
3840x2160@30HZ
3840x2160@50HZ 4:2:0
3840x2160@60HZ 4:2:0
4096x2160@24HZ
4096x2160@25HZ
4096x2160@30HZ
4096x2160@50HZ 4:2:0
4096x2160@60HZ 4:2:0
3840x2160@24HZ 4:2:2 12bit
3840x2160@25HZ 4:2:2 12bit
3840x2160@30HZ 4:2:2 12bit
4096x2160@24HZ 4:2:2 12bit
4096x2160@25HZ 4:2:2 12bit
4096x2160@30HZ 4:2:2 12bit
1280x768@60HZ
1920x1120@60HZ

- ◆ **自動切替:** ディスプレイAまたはディスプレイBにおけるオーディオ & ビデオソースの自動切替を有効にします。

◆ **ビデオ切替(接続済み)**: 新規ソースが接続されたときに、上記の自動切替で選択されたディスプレイにおけるオーディオ & ビデオソースを自動的に切り替える操作について定義します。

- **無効**: 自動切替を無効にします。
- **次へ**: 現在のビデオソースが接続されると、自動的に次の利用可能なソースへと切り替わります。

◆ **ビデオ切替(未接続)**: 過去に使用したソースが検出されたときに、上記の自動切替で選択されたディスプレイにおけるオーディオ & ビデオソースを自動的に切り替える操作について定義します。

- **無効**: 自動切替を無効にします。
- **次へ**: 現在のビデオソースとの接続が解除されると、自動的に次の利用可能なソースへと切り替わります。
- **最後**: ソース接続の順序に基づいて、ディスプレイを過去に使用可能であったソースへと自動的に切り替えます。例えば、ソースがポート2、ポート3、ポート4、ポート1の順にVP3520に接続されていて、上記の自動切替から選択したディスプレイがポート3に切り替わった場合、(ポート3の)ソースとの接続が解除されると、上記の自動切替で選択したディスプレイが自動的にポート1に切り替わります。

適用と自動適用

ビデオ制御画面で行った変更を自動的に適用するには、画面下部の「**自動適用**」を選択してください。

オーディオ制御設定

オーディオ制御画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「オーディオ&ビデオ」>「オーディオ制御」へ進んでください。

Audio Control

▼ Audio Output

Overall

8

A Display A

10

B Display B

10

Audio line out

10

Source

Follow Display A

▼

Audio amp out

10

Source

Follow Display A

▼

▼ Audio Input

1 HDBaseT IN 1

10

Source

Digital Audio

▼

2 HDBaseT IN 2

10

Source

Digital Audio

▼

3 HDMI IN 3

10

Source

Digital Audio

▼

4 HDMI IN 4

10

Source

Digital Audio

▼

5 HDMI IN 5

10

Source

Digital Audio

▼

AUDIO IN

10

MIC

10

Gain

30dB

▼

Apply

☐ Auto apply

オーディオ出力

◆ 全体の音量:

- 接続したスピーカーの音量に対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。

◆ ディスプレイA

- ディスプレイAに対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。

◆ ディスプレイB

- ディスプレイBに対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。

◆ オーディオ ライン出力

- オーディオ出力と同軸出力の音量に対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。
- ソース: VP3520のオーディオ出力ポートと同軸出力ポートに接続された独立スピーカーの音源を設定します。
 - ◇ ディスプレイAに同じ音源を使用するには、「ディスプレイAに従う」を選択してください。
 - ◇ ディスプレイBに同じ音源を使用するには、「ディスプレイBに従う」を選択してください。
 - ◇ 独立した音源(オーディオ入力ポートに接続済み)を使用するには、「オーディオ入力」を選択してください。

◆ オーディオアンプ出力

- LoZ出力のミュート、ミュート解除、音量設定を行います。
- ソース: VP3520のLoZ出力ポートに接続されたアンプの音源を設定します。
 - ◇ ディスプレイAに同じ音源を使用するには、「ディスプレイAに従う」を選択してください。
 - ◇ ディスプレイBに同じ音源を使用するには、「ディスプレイBに従う」を選択してください。
 - ◇ 独立した音源(オーディオ入力ポートに接続済み)を使用

するには、「オーディオ入力」を選択してください。

オーディオ入力

- ◆ **HDBaseT 入力1/HDBaseT 入力2:**HDBaseT 入力1/HDBaseT 入力2ソースの音量に対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。
 - **ソース:**HDBaseT 入力1/HDBaseT 入力2に対して、音源の設定を行います。ビデオに付属の音源を使用するには、「**デジタルオーディオ**」を選択してください。独立オーディオの音源を使用するには、ソース(オーディオ入力ポートに接続済み)で、「**エンベデッド・オーディオ入力**」を選択してください。
- ◆ **HDBaseT 入力3/HDBaseT 入力4/HDBaseT 入力5:**HDBaseT 入力3/HDBaseT 入力4/HDBaseT 入力5ソースの音量に対して、ミュート、ミュート解除、設定の操作を行います。
 - **ソース:**HDMI/3HDMI4/HDMI5ソースに対して、音源を設定します。ビデオに付属の音源を使用するには、「**デジタルオーディオ**」を選択してください。独立したオーディオソース(オーディオ入力ポートに接続済み)の音源を使用するには、「**エンベデッド・オーディオ入力**」を選択してください。
- ◆ **オーディオ入力:**オーディオ入力ポートに接続されている独立オーディオソースの音量を設定します。
- ◆ **マイク音量:**マイク入力ポートに接続されているマイクの音量を設定します。
 - **ゲイン:**マイク入力ポートに接続されたマイクの音量を設定します。

適用と自動適用

オーディオ制御画面で行った変更を自動的に適用するには、画面下部の「**自動適用**」を選択してください。

ディスプレイ制御設定

ディスプレイ制御画面では、接続されているディスプレイとその設定を管理します。ディスプレイ制御画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」>「ディスプレイ制御」に移動してください。自動表示制御の設定を行う前に、VP3520の制御方法とその設定を定義することを推奨します。p.55「設定」を参照してください。

Display Control

▼ Auto Display

Display Auto Power On

Enable

☒ Enable Screen Down(Relay 1)

Advanced

Display Auto Power Off

Enable

Active Time(mins)

10

☐ Enable Screen Up(Relay 2)

▼ Display A control Settings

Device Name

Display A

Control Type

CEC

Channel

HDBT Out

Command

Display ON

Display OFF

▼ Display B control Settings

Device Name

Display B

Control Type

CEC

Channel

HDMI Out

Command

Display ON

Display OFF

Apply

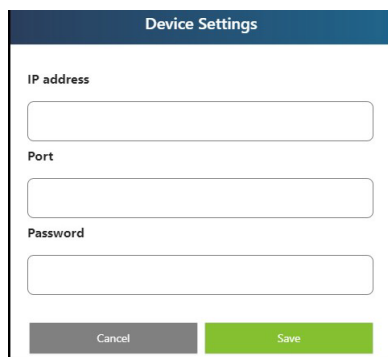
- ◆ **自動表示:** 接続されたHDMIおよびHDBaseTディスプレイのディスプレイ自動電源ON/OFF機能を設定します。
- **ディスプレイの自動電源ON:** ディスプレイの自動電源ON機能を有効または無効にします。VP3520が入力ソースを検出すると、接続されたディスプレイの電源が自動的にONになります。
- **スクリーンの降下を有効にする(リレー1):** チェックを入れると、スクリーンの自動降下機能が有効になります。VP3520が入力ソースを検出すると、接続されたプロジェクタースクリーンの電源が自動的に入り、スクリーンが下がってきます。
- **詳細設定:** クリックして、自動電源ON検出対象となる入力ソースを1つ以上選択してください。
- **ディスプレイの自動電源OFF:** ディスプレイの自動電源OFF機能を有効または無効にします。接続されたディスプレイは、VP3520の接続された入力ソースが取り外され、指定されたアクティブ時間検出されないと、自動的に電源がOFFになります。
- **アクティブ時間(分):** 入力ソースが取り外され、指定されたアクティブ時間検出されない場合に、VP3520が接続されたディスプレイの電源をOFFにするアクティブ時間を分単位で設定します。
- **スクリーンの巻き上げを有効にする(リレー2):** チェックを入れると、スクリーンの自動巻き上げ機能が有効になります。接続されたプロジェクタースクリーンは、VP3520の接続された入力ソースが取り外され、指定されたアクティブ時間の間に検出されないと、自動的に電源がOFFになり、スクリーンが巻き上がります。
- ◆ **ディスプレイA制御設定:** ディスプレイAの制御方法を設定します。
 - ドロップダウンメニューを使用して、ディスプレイAの制御方法を選択します。オプションは、ディスプレイA/RS-232C シリアル/RS-232C HDBT出力/PJLink1/ PJLink2です。
 - 制御コマンドを使用して、ディスプレイのON/OFF機能をテストします。
 - ディスプレイAの制御方法を選択した場合、制御タイプ(CEC)とチャンネル(HDBT出力)は固定されます。「**ディスプレイON**」や「**ディ**

スプレイOFF」をクリックすると、コマンドをテストします。

注意:

接続されているすべてのディスプレイでCECプロトコルの動作が保証されているわけではありません。ディスプレイのON/OFFコマンドがディスプレイで機能しない場合は、RS-232C シリアル、RS-232C HDBT出力、PJLinkなどの他の制御方法をご検討ください。

- RS-232C シリアルまたはRS-232C HDBT出力制御方法を選択した場合は、制御コマンドをテストする前に、HEXとASCIIの間でコマンドタイプを選択してください。
- PJLink1またはPJLink2の制御方法を選択した場合は、制御コマンドをテストする前にIPアドレス、ポート、パスワードを設定してください。PJLink1、PJLink2のIPアドレス、ポート、パスワードを設定するには、**Please set the IP address & password first.** **Go** をクリックしてください。そうすると、下の画面が表示されます。正しいIPアドレス、ポート番号、パスワードを入力したら、「保存」をクリックしてください。選択したコマンドをテストするには、ドロップダウンメニューからコマンドを選択し、「テスト」をクリックします。



The image shows a 'Device Settings' window with a blue header. Inside, there are three text input fields labeled 'IP address', 'Port', and 'Password'. At the bottom of the window, there are two buttons: a grey 'Cancel' button and a green 'Save' button.

◆ **ディスプレイB制御設定:** ディスプレイBの制御方法を設定します。

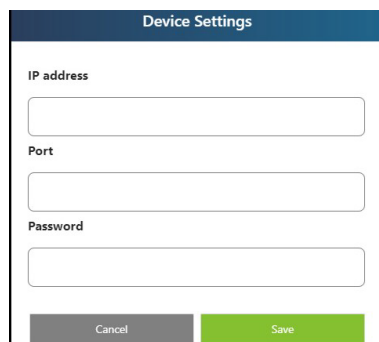
- ドロップダウンメニューを使用して、ディスプレイBの制御方法を選択します。オプションは、ディスプレイA/RS-232C シリアル /RS-232C HDBT出力/PJLink1/ PJLink2です。

- 制御コマンドを使用して、ディスプレイのON/OFF機能をテストします。
- ◇ ディスプレイBの制御方法を選択した場合、制御タイプ(CEC)とチャンネル(HDMI出力)は固定されます。「ディスプレイON」や「ディスプレイOFF」をクリックすると、コマンドをテストします。

注意:

接続されているすべてのディスプレイでCECプロトコルの動作が保証されているわけではありません。ディスプレイのON/OFFコマンドがディスプレイで機能しない場合は、RS-232C シリアル、RS-232C HDBT出力、PJLinkなどの他の制御方法をご検討ください。

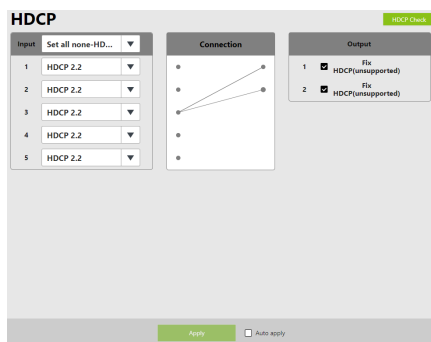
- ◇ RS-232C シリアルまたはRS-232C HDBT出力制御方法を選択した場合は、制御コマンドをテストする前に、HEXとASCIIの間でコマンドタイプを選択してください。
- ◇ PJLink1またはPJLink2の制御方法を選択した場合は、制御コマンドをテストする前にIPアドレス、ポート、パスワードを設定してください。PJLink1、PJLink2のIPアドレス、ポート、パスワードを設定するには、**Please set the IP address & password first.** **Go** をクリックしてください。そうすると、下の画面が表示されます。正しいIPアドレス、ポート番号、パスワードを入力したら、「保存」をクリックします。正しいIPアドレス、ポート番号、パスワードを入力したら、「保存」をクリックしてください。選択したコマンドをテストするには、ドロップダウンメニューからコマンドを選択し、「テスト」をクリックします。



The screenshot shows a 'Device Settings' window with a dark blue header. Below the header are three text input fields labeled 'IP address', 'Port', and 'Password'. At the bottom of the window are two buttons: a grey 'Cancel' button and a green 'Save' button.

HDCP設定

HDCP画面では、デジタルコピー保護のために入出力ポート間のHDCPキー設定を表示および設定し、異なるデバイス間でシームレス切替機能が動作できる環境を確保します。HDCP画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」>「HDCP」に移動してください。



入力

ここでは、ポート機能をHDCP2.2、HDCP1.4、非HDCPのどちらにするかを個別に選択するか、1つの設定をすべてのポートに適用するかを選択できます。

接続

ここでは、入力と出力の間の接続パスを視覚的に表示できます。入力を選択すると、そのパスが緑色で表示されます。

出力

ここでは、HDCP設定を個々のポートで固定するかどうかを定義できます。この設定により、HDCPと非HDCP対応デバイスを切り替えてもシームレス切替が可能になります。

HDCPチェック

HDCPチェックボタン(右上隅)により、接続されたディスプレイのHDCP機能を一度に確認することができます。これらの分析は、各ポートの固定HDCPチェックボックスの後のカッコ内に示されます。

適用と自動適用

ビデオ制御画面で行った変更を自動的に適用するには、画面下部の「自動適用」を選択してください。

ファンクションキー設定

ファンクションキー画面では、ファンクションキーの有効化、無効化、および設定を行います。ファンクションキーごとに、10個のコマンドで最大4つのファンクションキーを作成できます。ファンクションキー画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「オーディオ & ビデオ」 > 「ファンクションキー」に移動してください。ファンクションキーを使用する前に、VP3520の制御方法とその設定を定義することを推奨します。p.55「設定」を参照してください。

The screenshot displays the 'Function Key' configuration page. At the top, there are links for 'Expand All' and 'Collapse All'. Below this, three sections are shown, each for a different function key (Fn1, Fn2, Fn3). Each section is currently collapsed, indicated by a downward arrow. The expanded view for each section would include a 'Name' text input field, a 'Function' dropdown menu (currently set to 'Enable'), and a 'Command' dropdown menu. A green 'Create New' button is located at the bottom of each section. At the very bottom of the page, there is a green 'Apply' button and an 'Auto apply' checkbox.

- ◆ **すべて展開する:**すべてのファンクションキーを、名前、ファンクション、およびコマンド情報で完全に展開します。
- ◆ **すべて折りたたむ:**名前、機能、コマンド情報を含むすべてのファンクションキーを非表示にします。特定のファンクションキーをクリックする

と、個々の名前、機能、コマンド情報が表示されます。

- ◆ **FN1/FN2/FN3/FN4/FN5/FN6/FN7/FN8/FN9/FN10**: ファンクションキー名を定義し、ファンクションキーの有効/無効を設定します。
- ◆ **Create New** をクリックすると、各種制御方法のコマンドを作成します。

The screenshot shows a 'Command Settings' window with the following fields and options:

- Device Name**: A dropdown menu currently showing 'Display A'.
- Control Type**: A dropdown menu currently showing 'CEC'.
- Channel**: A dropdown menu currently showing 'HDBT Out'.
- Command**: A dropdown menu currently showing 'Display ON'.
- Test**: A green button to test the command.
- Cancel**: A grey button to cancel the operation.
- Save**: A green button to save the settings.

- ◆ ドロップダウンメニューを使用して、制御方法を選択します。オプションは、ディスプレイA(CEC)/ディスプレイB(CEC)/RS-232C シリアル/RS-232C HDBT出力/IRシリアル/IR HDBT出力/PJLink1/PJLink2/リレー1/リレー2です。
 - ディスプレイAまたはディスプレイ Bの制御方法が選択されている場合は、ドロップダウンメニューを使用してディスプレイONまたはディスプレイOFFの間のコマンドを選択します。選択したコマンドをテストするには、「テスト」をクリックします。

The screenshot shows the 'Command Settings' dialog box. At the top, the title is 'Command Settings'. Below it, the 'Device Name' is set to 'Display A'. The 'Control Type' is 'CEC'. The 'Channel' is 'HDBT Out'. The 'Command' section has a dropdown menu set to 'Display ON'. At the bottom, there are three buttons: 'Test' (green), 'Cancel' (grey), and 'Save' (green).

- RS-232C シリアルまたはRS-232C HDBT出力の制御方法を選択した場合は、コマンド名を入力し、コマンドの種類をHEXとASCIIの間で選択し、コマンドを入力してください。「テスト」をクリックすると、先ほど作成したコマンドをテストします。

The screenshot shows the 'Command Settings' dialog box. At the top, the title is 'Command Settings'. Below it, the 'Device Name' is set to 'RS232-Serial'. The 'Control Type' is 'RS232'. The 'Channel' is 'RS232-Serial'. The 'Command' section has a 'Command Name' field, a 'Type' dropdown menu set to 'HEX', and a 'Command' field. At the bottom, there are three buttons: 'Test' (green), 'Cancel' (grey), and 'Save' (green).

- IRシリアルまたはIR HDBT出力の制御方法が選択されている

場合は、コマンド名を入力して「学習」をクリックしてください。
p.15「プロジェクタースクリーンに対する操作設定」で説明した
手順に従って、割り当てられたファンクションキーに最大10個
のコマンドを作成してください。「テスト」をクリックすると、先ほ
ど作成したコマンドをテストします。

Command Settings

Device Name
IR-Serial

Control Type
IR
Channel
IR-Serial

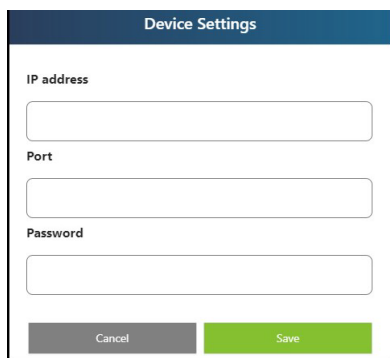
Command
Command Name

Learn

Test

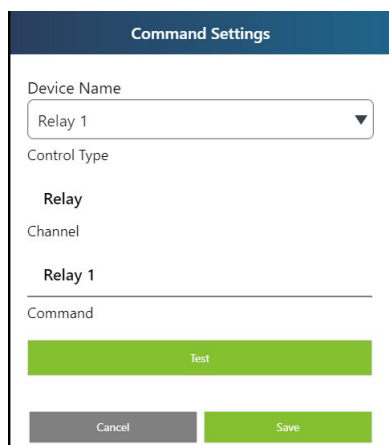
Cancel Save

- PLink1またはPLink2の制御方法を選択した場合は、
Please set the IP address & password first. **Go** をクリックしてIPアドレ
ス、ポート、パスワードを設定してください。そうすると、以下
の画面が表示されます。正しいIPアドレス、ポート番号、パス
ワードを入力したら、「保存」をクリックしてください。選択した
コマンドをテストするには、ドロップダウンメニューからコマン
ドを選択し、「テスト」をクリックします。



The 'Device Settings' form has a dark blue header with the title 'Device Settings'. Below the header, there are three input fields: 'IP address', 'Port', and 'Password'. Each field is a simple white rectangle with a thin border. At the bottom of the form, there are two buttons: a grey 'Cancel' button on the left and a green 'Save' button on the right.

- リレー1またはリレー2の制御方法を選択した場合は、「テスト」をクリックしてコマンドのテストを行ってください。



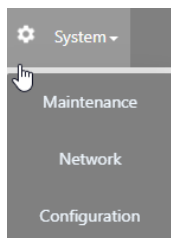
The 'Command Settings' form has a dark blue header with the title 'Command Settings'. Below the header, there is a 'Device Name' dropdown menu with 'Relay 1' selected. Underneath is the 'Control Type' section, which contains a 'Relay' label and a 'Channel' dropdown menu also set to 'Relay 1'. Below the channel selection is a 'Command' section with a large green 'Test' button. At the bottom of the form, there are two buttons: a grey 'Cancel' button on the left and a green 'Save' button on the right.

適用と自動適用

ビデオ制御画面で行った変更を自動的に適用するには、画面下部の「自動適用」を選択してください。

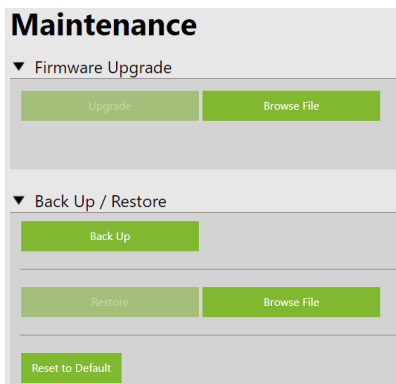
システム設定

⚙️ System ▾ をクリックすると、システム設定の下にある利用可能なオプションの一覧が表示されます。



メンテナンス設定

メンテナンス画面では、システムファームウェアのアップグレード、システム設定のバックアップまたはリストア、およびデフォルト設定の復元を行います。メンテナンス画面にアクセスするには、Webコンソールにログインし、「システム」>「メンテナンス」に移動してください。



システムファームウェアのアップグレード

1. 適用するファームウェアファイルを準備してください。

- a) <http://www.aten.com/global/en/>から製品ホームページにアクセスしてください。
- b) 「サポートとダウンロード」タブで、ファームウェアファイルをダウンロードしてください。

2. VP3520のWebコンソールにログインし、「システム」>「メンテナンス」に移動してください。
3. 「ファームウェアアップグレード」セクションで、「ファイルの参照」をクリックしてダウンロード済みファームウェアファイルを選択し、「アップグレード」をクリックしてください。すぐにアップグレードが開始されます。
4. アップグレードが完了すると、確認メッセージが表示され、ユニットが再起動します。

システム設定のバックアップ

VP3520における設定のバックアップとエクスポートを行うことができます。ユーザーネームとパスワードの設定は、このバックアップの対象外となります。

1. VP3520のWebコンソールにログインし、「システム」>「メンテナンス」に移動してください。
2. 「バックアップ」をクリックしてください。

システム設定のリストア

1. VP3520のWebコンソールにログインし、「システム」>「メンテナンス」に移動してください。
2. VP3520の設定をリストアするには、「ファイルの参照」をクリックして過去のバックアップファイル(.aes)を探し、「リストア」をクリックしてください。

デフォルト設定のリセット

1. VP3520のWebコンソールにログインし、「システム」>「メンテナンス」に移動してください。
2. 「デフォルトにリセット」をクリックしてください。これにより、ネットワーク設定を含むすべての設定がデフォルトにリセットされます。

ネットワーク設定

VP3520のネットワーク接続を設定するには、Webコンソールにログインしてから、「システム」>「ネットワーク」に移動してください。

Network

▼ IP setting

Mode

☒ DHCP ☐ Manual

IP address

192.168.1.32

Mask

255.255.255.0

Gateway

192.168.1.1

▼ Browser

Timeout

30mins

▼ IP installer

Mode

Enable

Apply

IP設定

- ◆ **モード**: VP3520がIPアドレスを取得してネットワークに接続する方法を設定します。
 - **DHCP**: 接続されているネットワークスイッチにIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSを動的にVP3520に割り当てるには、このオプションを選択します。
 - **手動**: VP3520で固定IPアドレスを使用する場合は、このオプションを選択します。IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを指定します。

ブラウザー

- ◆ **タイムアウト**: WebブラウザーがVP3520への接続の取得を待機してからリクエストを終了するまでの時間を設定します。

IPインストーラー

- **モード**: IPインストーラーで表示および設定するVP3520を (IPアドレスで) 設定します。
 - **有効**: IPインストーラーで表示および設定するVP3520を (IPアドレスで) 設定します。
 - **参照のみ**: IPインストーラーでのみ参照されるようにVP3520を設定します。
 - **無効**: IPインストーラーでVP3520を認識できないように設定します。

設定

VP3520の制御方法とその設定を定義するには、Webコンソールにログインし、「システム」>「設定」に移動してください。ファンクションキーと自動表示制御を使用する前に、VP3520で制御方法を設定することを推奨します。

Control Configuration			
Device Name	Control Type	Channel	
Display A	CEC	HDBT Out	⌵
Display B	CEC	HDMI Out	⌵
RS232-Serial	RS232	RS232-Serial	⌵
RS232-HDBT Out	RS232	RS232-HDBT Out	⌵
IR-Serial	IR	IR-Serial	⌵
IR-HDBT Out	IR	IR-HDBT Out	⌵
Pj-Link 1	Ethernet	Pj-Link	⌵
Pj-Link 2	Ethernet	Pj-Link	⌵
Relay 1	Relay	Relay 1	⌵
Relay 2	Relay	Relay 2	⌵

ディスプレイAとディスプレイBの設定

デバイス名を変更し、ドロップダウンメニューを使用して、HDMIおよびHDBT出力送信の遅延間隔(秒単位)を選択できます。

Device Settings

Device Name

Display A

Control Type

CEC

Channel

HDBT Out

Delay Interval(Seconds)

0

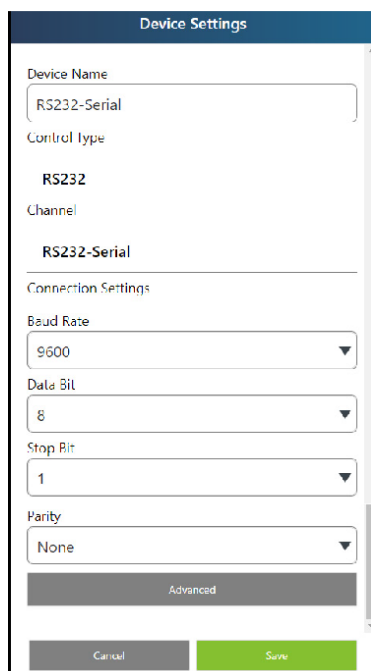
▼

Cancel

Save

RS-232CシリアルおよびRS-232C HDBT出力の設定

デバイス名を変更したり、ドロップダウンメニューを使用してボーレート、データビット、ストップビット、パリティを設定したりすることができます。



Device Settings

Device Name
RS232-Serial

Control type
RS232

Channel
RS232-Serial

Connection Settings

Baud Rate
9600

Data Bit
8

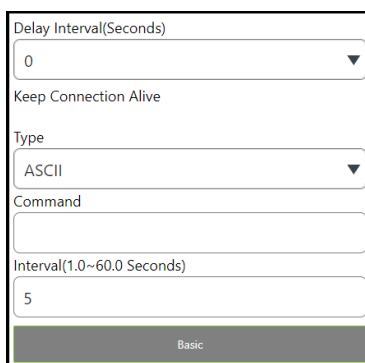
Stop Bit
1

Parity
None

Advanced

Cancel Save

Advanced をクリックすると、さらに多くの設定を行うことができます。



Delay Interval(Seconds)
0

Keep Connection Alive

Type
ASCII

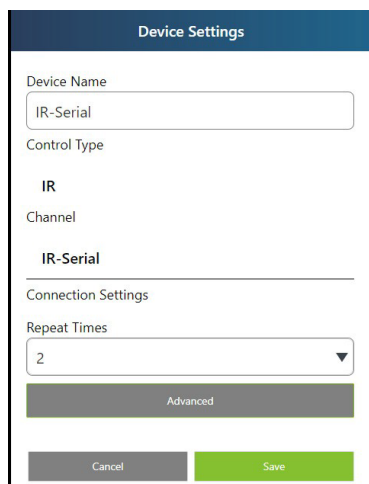
Command

Interval(1.0~60.0 Seconds)
5

Basic

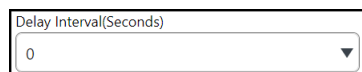
IRシリアルおよびIR HDBT出力の設定

デバイス名を変更したり、ドロップダウンメニューを使用して繰り返し回数を設定したりすることができます。



The screenshot shows a 'Device Settings' dialog box with a dark blue header. It contains several sections: 'Device Name' with a text input field containing 'IR-Serial'; 'Control Type' with a dropdown menu set to 'IR'; 'Channel' with a text input field containing 'IR-Serial'; and 'Connection Settings' with a 'Repeat Times' dropdown menu set to '2'. At the bottom, there are three buttons: 'Advanced' (grey), 'Cancel' (grey), and 'Save' (green).

Advanced をクリックすると、さらに多くの設定を行うことができます。



The screenshot shows a dropdown menu titled 'Delay Interval(Seconds)' with a single visible option, '0'.

PJLinkの設定

デバイス名を変更したり、ドロップダウンメニューを使用してPJLink伝送の遅延間隔を秒単位で選択したりすることができます。正しいIPアドレス、ポート番号、パスワードを入力してください。

Device Settings

Device Name
PJ-Link 1

Control Type
Ethernet

Channel
PJ-Link

Connection Settings

IP address
The IP address format is incorrect.

Port
Incorrect port format

Password

Delay Interval(Seconds)
0 ▼

Cancel Save

リレー1とリレー2の設定

デバイス名を変更したり、パルス時間を秒単位で設定したり、設定をテストしたりすることができます。

Device Settings

Device Name

Relay 1

Control Type

Relay

Channel

Relay 1

Command

Pulse Time

10

Sec (0.1-1800.0)

Test

Cancel

Save

第5章

CLIコマンド

概要

VP3520は、ホストコンピューターまたはコントロールシステムなどの他のデバイスに接続されている場合、RS-232CまたはTelnetコマンドを介して設定や制御を行うことができます。この章では、RS-232C/Telnet経由でVP3520に接続する方法とコマンド構文について説明します。

Telnet経由によるVP3520への接続

VP3520とのTelnetセッションを確立するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. ホストコンピューターまたはコントロールシステムをVP3520との共有ネットワークに接続してください。
2. コンピューターからコマンドライン・インタープリター・プログラムを開いてください。
3. コマンドライン・インタープリターにおいて、次の方法でVP3520のIPアドレスを入力してください：

```
telnet [IPアドレス]:23
```

4. **[Enter]**キーを押してください。ログイン画面が表示されます。
5. ログインプロンプトで、VP3520のログイン・ユーザーネームとパスワードを入力してください。
6. VP3520とのセッションが確立されると、RS-232Cコマンドを介してVP3520の制御や設定を行うことができます。コマンドの詳細については、次を参照してください：

- ◆ p.62「コマンド構文」
- ◆ p.63「コマンド一覧」

注意:

ユーザーが既にセッションを使用しているユーザーネームでログインすると、最新のログインが有効になり、以前のセッションが置き換えられます。

RS-232C経由によるVP3520への接続

1. ホストコンピューターまたはコントロールシステムをVP3520ユニットのRS-232Cシリアルポートに接続してください。
2. RS-232Cシリアル制御とコントローラーPCのOSに対応しているコントローラーソフトウェアをダウンロードしてインストールしてください。
3. ソフトウェアを実行し、以下の接続設定を行ってください:
 - ◆ 接続するシリアルライン: **COM1**
 - ◆ 速度(ボーレート): **19200**
 - ◆ データビット: **8**
 - ◆ ストップビット: **1**
 - ◆ パリティ: **なし**
 - ◆ フローコントロール: **なし**
4. VP3520とのセッションが確立されると、RS-232Cコマンドを介してVP3520の制御や設定を行うことができます。コマンドの詳細については、次を参照してください:
 - ◆ p.62「コマンド構文」
 - ◆ p.63「コマンド一覧」

コマンド構文

- ◆ コマンドの一般的な形式は次のとおりです：

コマンド パラメーター <引数>{1|2|3}

表記	説明
コマンド	コマンドの名前は太字で表示されます。
パラメーター	パラメーターの名前を示します。
<引数>	値の名前、またはユーザーが指定する必要がある情報を示します。入力するのは山カッコの中にある情報だけです。カッコ自体は入力しないでください。
[]	オプション項目を示します。入力するのは山カッコの中にある情報だけです。カッコ自体は入力しないでください。
{ }	ユーザーが選択する必要がある一連のオプションを示します。
	コマンドにおける2つ以上の相互に排他的なオプションを示します。コマンドラインでは、オプションを1つだけ入力してください。記号は入力しないでください。

- ◆ 2つ以上のパラメーターがある場合、これらのパラメーターの順序は演算結果に影響しません。例えば、次のコマンドはどちらも同じタスクを実行します：

コマンド名+パラメーター1+パラメーター2

コマンド名+パラメーター2+パラメーター1

コマンド一覧

以下のコマンドを使用すると、TelnetまたはRS-232C経由でVP3520の制御や設定を行うことができます。VP3520へのTelnetセッション確立の詳細については、p.60「Telnet経由によるVP3520への接続」を、RS-232Cセッション確立の詳細については、p.61「RS-232C経由でのVP3520への接続」をそれぞれ参照してください。

ポート番号

VP3520の各入出力ポートの引数値は、以下の表を参照してください。
例えば、ビデオポート1の<input_port>値はi01で、オーディオ入力の<input_port>値はi05です。

ソース		ソース番号	インターフェース	ポート番号
ビデオ入力		1	HDBaseT	i01
		2	HDBaseT	i02
		3	HDMI	i03
		4	HDMI	i04
		5	HDMI	i05
ビデオ出力		1	HDBaseT	o01
		2	HDMI	o02
オーディオ入力	オーディオ入力	N/A	アナログ	i06
	マイク	N/A	アナログ	i07
オーディオ出力	オーディオ出力	N/A	アナログ	o03
	LoZ出力	N/A	アナログ	o04
	同軸	N/A	デジタル	o05
HDBaseTオーディオ		1	HDBaseT	src01
HDMIオーディオ		2	HDMI	src02

表示モードの設定

◆ 機能

VP3520をマトリックスまたはミラーモードに設定します。

◆ 構文

displaymode { matrix | mirror }

◆ パラメーター

- matrix: 有効にすると、AVソースを個別に設定し、異なる出力を表示できます。
- mirror: 有効にすると、ディスプレイBはディスプレイAに割り当てられたAVソースを使用し、同じ内容を表示します。

◆ 例

displaymode matrix

エコー機能の有効化または無効化

◆ 機能

エコーを有効または無効にします。

◆ 構文

echo { on | off }

◆ パラメーター

- on: エコーを有効にします。
- off: エコーを無効にします(デフォルト)。

◆ 例

echo on

EDIDモードの設定

◆ 機能

VP3520のEDIDモードを設定します。

◆ 構文

edid { port1 | remix | default }

◆ パラメーター

- port1: VP3520のEDIDモードを、出力ポートAに接続されたディスプレイに従うように設定します。
- remix: VP3520のEDIDモードを設定して、システムが接続されたディスプ

レイの最適なEDIDをソースに送信するリミックスを行います。

- default: VP3520のEDIDモードを「ATENデフォルト」に設定します。これにより、接続されたソースにATENプリセットのEDIDが送信されます(デフォルト)。

◆ 例

edid default

ミュート機能の設定

◆ 機能および構文

構文	機能
mute	入出力ポートごとのミュート設定を示します。
mute { i<input_port> i sys i* }	指定した入出力ポートのミュート設定を示します。
mute { o<output_port> o sys o* }	
mute { i<input_port> i* } { on off }	指定したオーディオ入出力のオーディオをミュート/ミュート解除します。
mute { o<output_port> o* } { on off }	

◆ パラメーター

- i<input_port>: 入力ポートを2桁で指定します。
- i sys: すべてのオーディオ入力(ソースデバイス、ライン入力、マイク)を指します。
- i*: すべての入力ポートを指します。
- o<output_port>: 出力ポートを2桁で指定します。
- o sys: すべてのオーディオ出力(ディスプレイデバイスとスピーカー)を指します。
- o*: すべての出力ポートを示します。
- on: 指定した入出力ポートをミュートします。
- off: 指定した入出力ポートのミュートを解除します。

◆ 例

mute o01 off

状態読み取り機能の設定

◆ 機能および構文

構文	機能
read	各出力ポートに割り当てられたビデオおよびオーディオ入力、EDIDモード、デバイス情報、ネットワーク設定を表示します。
read version	システムファームウェアのバージョンを表示します。
read o<output_port>connection	指定した出力ポートへのビデオおよびオーディオ入力の割り当てを表示します。
read o<output_port>connection video	指定した出力ポートに対するビデオ入力の割り当てを表示します。
read o<output_port>connection audio	指定した出力ポートに対するオーディオ割り当てが表示されます。

◆ パラメーター

- version: システムファームウェアのバージョンを示します。
- o<output_port>: 出力ポートを2桁で指定します。
- connection: ビデオとオーディオの両方の入力割り当てを示します。
- video: ビデオ入力の割り当てのみを示します。
- audio: オーディオ入力の割り当てのみを示します。

◆ 例

read o01 connection video

ユニットのリセット

◆ 機能

VP3520をデフォルト設定にリセットします。

◆ 構文

reset

スケーリングの設定

◆ 機能および構文

構文	機能
scaling	出力AおよびBのスケーラー設定を読み出します。
scaling o<output_port o*>	指定した出力ポートのスケーリング設定を行います。
hor	指定した出力ポートの水平解像度を設定します。
ver	指定した出力ポートの垂直解像度を設定します。
freq	指定した出力ポートの周波数分解能を設定します。
cs <rgb yuv420 yuv422>	指定した出力ポートの色空間を設定します。
native	ディスプレイの解像度を指定された出力ポートにマッピングします。

◆ パラメーター

- o<output_port>: 出力ポートを2桁で指定します。
- o*: すべての出力ポートを示します。
- hor: 水平解像度を設定します。
- ver: 垂直解像度を設定します。
- freq: 周波数を設定します。
- cs: 色空間を設定します。
- native: ディスプレイのネイティブ解像度をマッピングします
(デフォルト)。

◆ 例

scaling o02 hor 1920 ver 1080 freq 60

スタンバイモードの有効化または無効化

◆ 機能および構文

構文	機能
<code>standby</code>	現在のスタンバイモードの設定を表示します。スタンバイモードは、ユーザーが必要なときに素早く操作を再開できるように、システムの一部をシャットダウンする省電力モードです。
<code>standby on off</code>	スタンバイモードを有効または無効にします。

◆ パラメーター

- `on`: スタンバイモードを有効にします。
- `off`: スタンバイモードを無効にします(デフォルト)。

◆ 例

`standby off`

ソースの切替

◆ 機能

指定したソースを指定したディスプレイに切り替えます。

◆ 構文

```
sw { o<output_port> | o* } { i<input_port> | i+ | i- }
```

◆ パラメーター

- `i<input_port>`: 入力ポートを2桁で指定します。
- `+`: 次の入力ポートを示します。
- `-`: 前の入力ポートを示します。
- `o<output_port>`: 出力ポートを2桁で指定します。
- `o*`: すべての出力ポートを示します。

◆ 例

```
sw o01 i02
```

```
sw o01+
```

```
sw o* i02
```

切替モードの設定

◆ 機能

自動切替を有効または無効にします。

◆ 構文

```
swmode { auto | off }
```

◆ パラメーター

- auto: 自動切替を有効にします(デフォルト)。
- off: 自動切替を無効にします。

◆ 例

```
swmode auto
```

音量の設定

◆ 機能および構文

構文	機能
volume	全体の合計音量と入出力ポートごとの音量を表示します。
volume { i<input_port> i* }	指定した入出力ポートの音量を設定します。
v<volume_number>	
volume { o<output_port> o sys o* }	
v<volume_number>	

◆ パラメーター

- i<input_port>: 入力ポートを2桁で指定します。
- i*: すべての入力ポートを示します。
- o<output_port>: 出力ポートを2桁で指定します。
 - ◇ 出力1(HDBaseT): o01
 - ◇ 出力2(HDMI): o02
- o*: すべての出力ポートを示します。
- v<volume_number>: 指定したオーディオポートに設定する音量を2桁(01~10)で指定します。

◆ 例

`volume i01 v10`

`volume o03 v05`

ファン速度の設定

◆ 機能

VP3520を冷却する内部ファン速度を設定します。

◆ 構文

`fan { low | mid | high }`

◆ パラメーター

- low: 内蔵ファンを低速に設定します(デフォルト)。
- mid: 内蔵ファンを通常の設定に設定します。
- high: 内蔵ファンを高速に設定します。

◆ 例

`fan low`

ユニットの再起動

◆ 機能

VP3520を再起動します。

◆ 構文

`reboot`

オーディオマッピングの設定

◆ 機能および構文

構文	機能
o {output_port}	出力ポートを指定します。
src {port}	ディスプレイAまたはディスプレイBの音源を指定します。
type {sd}	指定された出力ポート(アナログ)のオーディオを、ディスプレイAまたはディスプレイBの間の指定された音源(デジタル)に追従するように設定します。

◆ パラメーター

- o<output_port>: 出力ポートを2桁で指定します。
- src<port>: 音源を2桁で指定します。
 - ✧ src01: ディスプレイAを示します。
 - ✧ src02: ディスプレイBを示します。
- sd: 指定した出力ポート(アナログ)のオーディオを、ディスプレイAまたはディスプレイBの間の指定した音源(デジタル)に追従するように設定します。

◆ 例

audiomap o03src01sd

第6章

ビデオプレゼンテーション コントロールアプリ

概要

ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリは、会議への参加、コンテンツの共有、ソースとディスプレイの切替、VP3520デバイスへのシステム設定といった操作を、簡単に行うことができるように設計されています。

対応システム

ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリは、次のモバイルOSをサポートします：

モバイルOS	対応バージョン
Android	バージョン8.0以降
iOS	バージョン12以降

アプリのインストールと設定

1. ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリをモバイルデバイスにインストールしてください。
 - a) モバイルデバイスで、App Store () または Google Play () のアイコンをタップしてください。
 - b) 検索ボックスに「ATEN Video Presentation Control App」と入力してください。
 - c) ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリをタップし、アプリをインストールしてください。または、
 - d) 以下のQRコードをスキャンしてアプリをインストールしてください。



2. モバイルデバイスから、ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリのアイコン()をタップしてください。

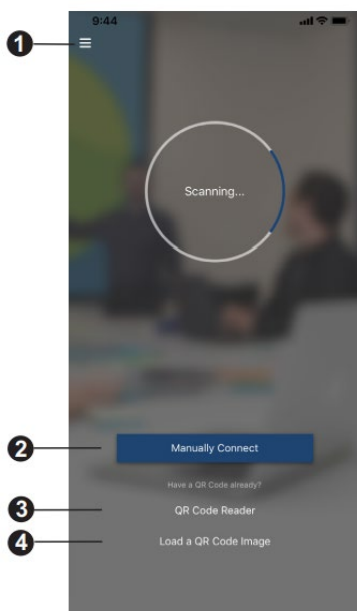
注意:

モバイルデバイスは、VP3520がインストールされているネットワークに接続してください。

iOS版

メイン画面

ログインすると、ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリはデフォルトでスキャン画面になります。各タブの機能の概要については、下表を参照してください。



番号	名称	説明
1	情報 	情報アイコンをタップすると、バージョン、プライバシーポリシー、連絡先などの情報が表示されます。
2	手動接続	このアイコンをタップすると、IPアドレスまたは4桁の部屋コードを入力して会議に手動で接続します。
3	QRコードリーダー	このアイコンをタップすると、QRコードをスキャンして会議に参加できます。
4	QRコード画像の読み込み	このアイコンをタップすると、会議に参加するためのQRコード画像がアップロードされます。

情報

下図は情報画面の外観です。バージョン、プライバシーポリシー、連絡先を示します。「お問い合わせ」をタップすると、ATENの公式Webサイトに直接接続することができます。



注意:

特に指定のない限り、本書に記載されている画面はすべてスマートフォン専用です。タブレットの実際の画面のレイアウトは、これらの例と若干異なる場合があります。

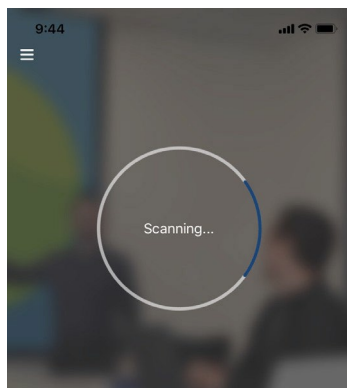
会議への参加

VP3520のATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを通じて会議に参加するには、3つの方法があります。アプリを開いている場合は、デバイスと利用可能な部屋が自動的にスキャンされてアクセスできます。あるいは、IPアドレスと部屋コードを手動で入力するか、QRコードを使用して会議に参加できます。それぞれの方法について説明します。

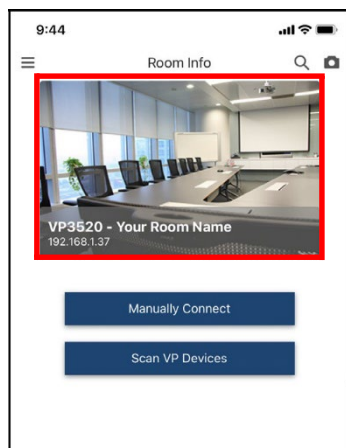
会議への自動参加

会議を自動的にスキャンして参加するには、次の手順に従って操作を行ってください。

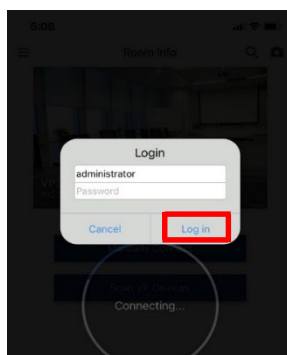
1. ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを開き、スキャンプロセスが終了するまで待機してください。



2. スキャンが終了すると、部屋一覧が表示されます。会議に参加する部屋をタップしてください。



3. ユーザーネームとパスワードを入力したら、「ログイン」をクリックしてください。



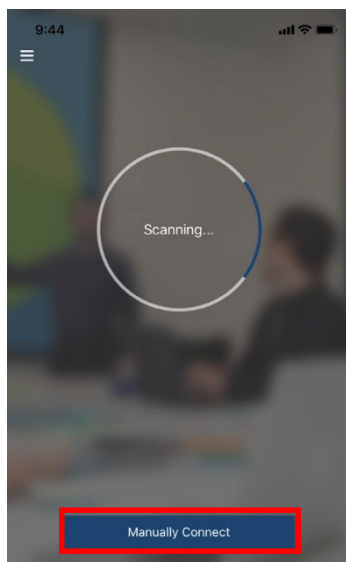
4. これで、会議に正常に参加できました。



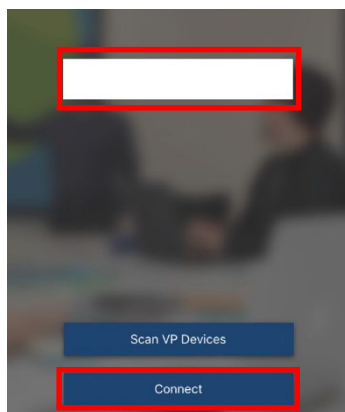
手動接続によるミーティングへの参加

会議に手動で接続して参加するには、次の手順に従って操作を行ってください。

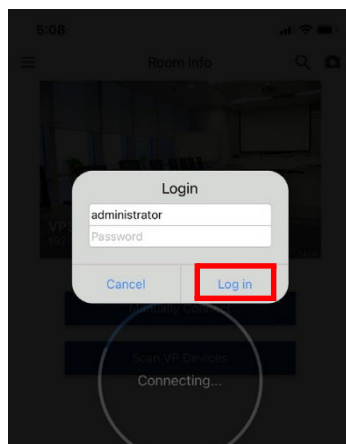
1. ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを開き、「手動で接続」をタップしてください。



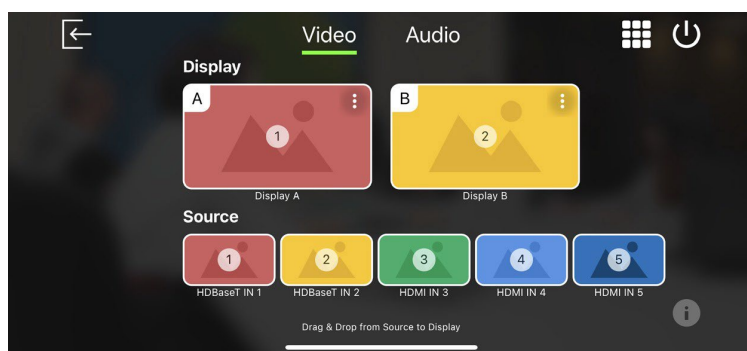
2. VP3520のIPアドレスを入力し、「接続」をタップしてください。



3. ユーザーネームとパスワードを入力したら、「ログイン」をクリックしてください。



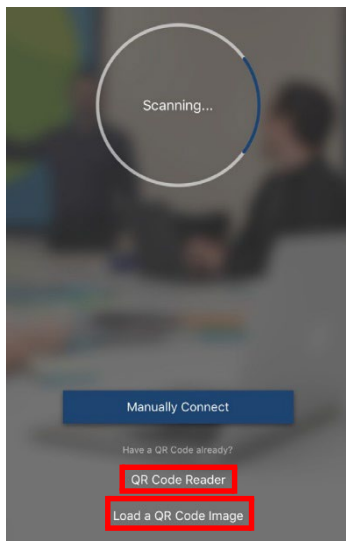
4. これで、会議に正常に参加できました。



QRコードによる会議への参加

QRコードで会議に参加するには、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. ATENビデオプレゼンテーションコントロールアプリを開き、**QRコードリーダー**か、「**QRコードイメージを読み込む**」をタップしてください。

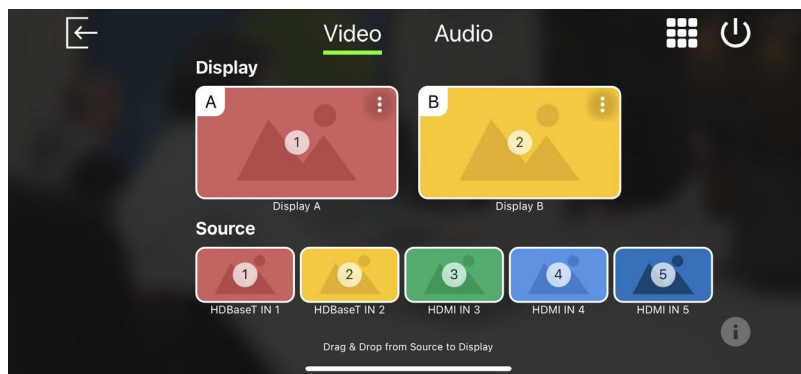


2. **QRコードリーダー**をタップして、事前に生成されたQRコードを読み取ってください。
3. 「**QRコードイメージを読み込む**」をタップして、事前に生成されたQRコードをアップロードしてください。
4. これで、会議に正常に参加できました。

コントロールパネルのスマートフォン

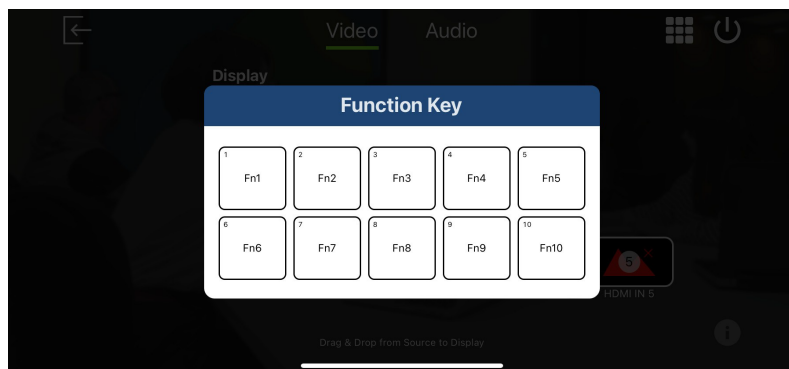
コントロールパネルでは、次のタスクを実行できます。

- ◆ 表示ソースの切替
- ◆ 表示モード、解像度、アスペクト比の設定変更
- ◆ VP3520における主なシステム設定



ファンクションキー

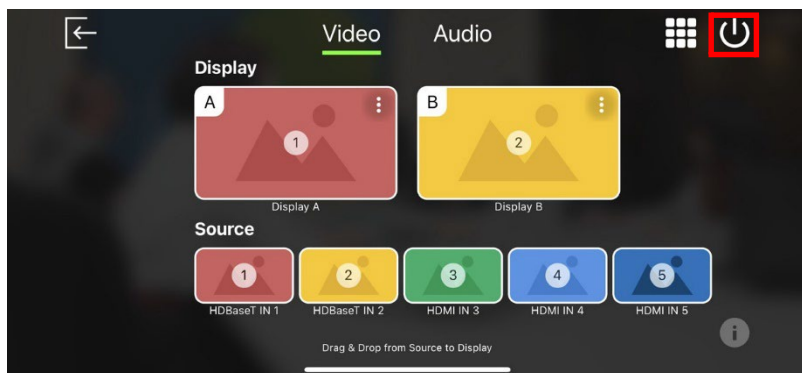
簡単に操作できるよう提供されたファンクションキー一覧を表示するには、メイン画面で  をタップしてください。そうすると、下図のようなファンクションキー一覧が表示されます。



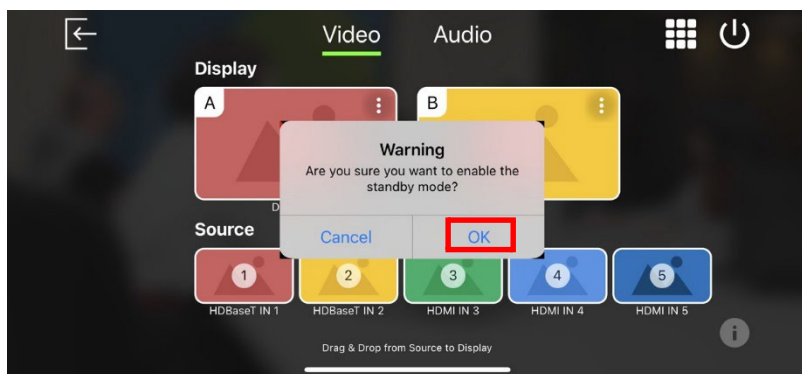
スタンバイモードの有効化

スタンバイモードを有効にするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. メイン画面で  を押してください。

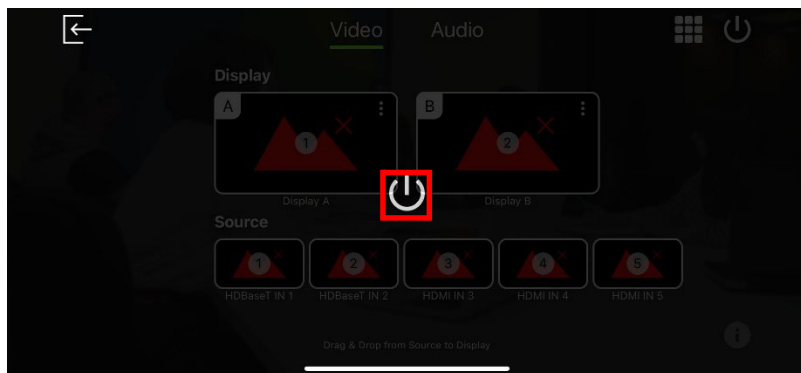


2. 警告画面が表示されます。次に「OK」をタップしてください。



スタンバイモードの無効化

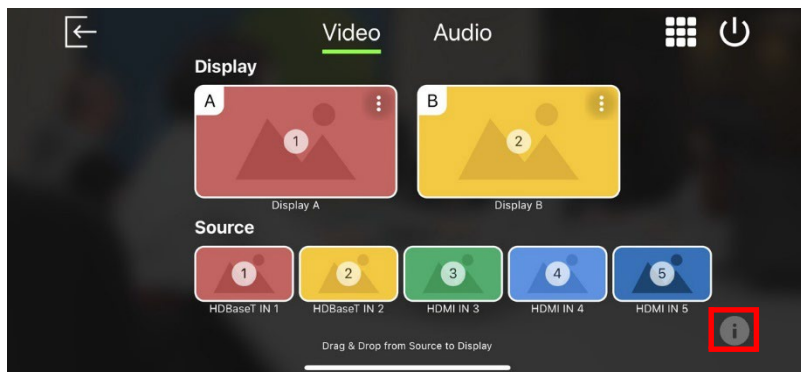
スタンバイモードを無効にするには、画面にある  をタップしてください。



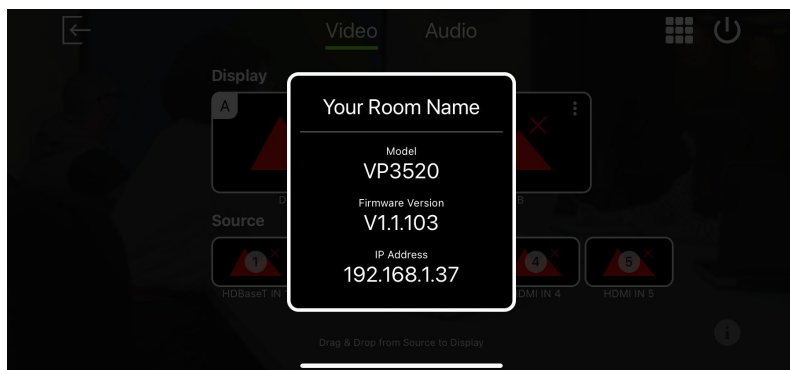
システムバージョンの確認

システム情報を確認するには、以下の手順に従って操作を行ってください。

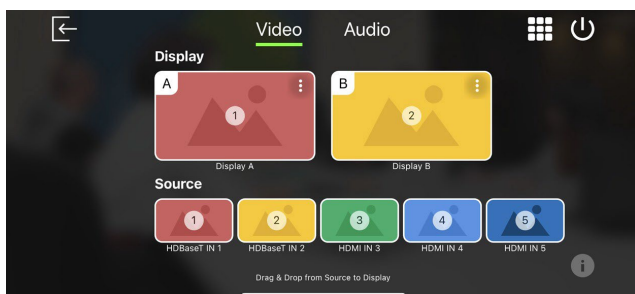
1. メイン画面で  を押してください。



2. 下図のような画面が表示されます。



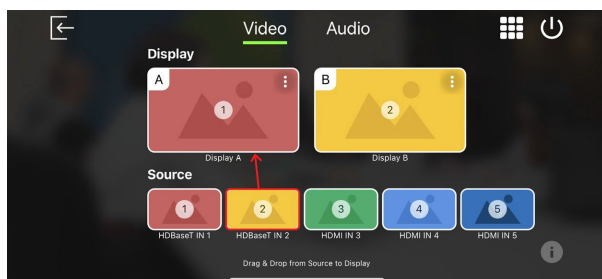
ビデオパネル



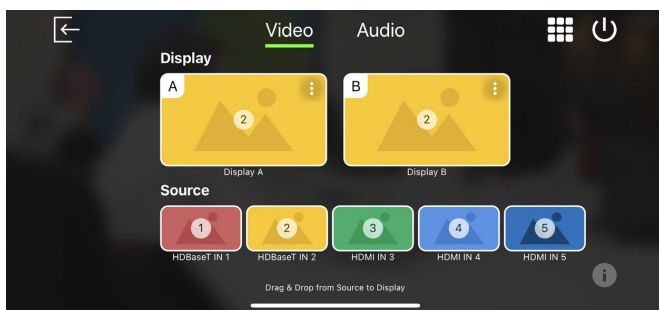
ディスプレイに対するソースの切替

ディスプレイに対するソースの切替は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. ソースのHDBaseTをディスプレイAに切り替えるには、ビデオパネルからソースをディスプレイAにドラッグしてください。



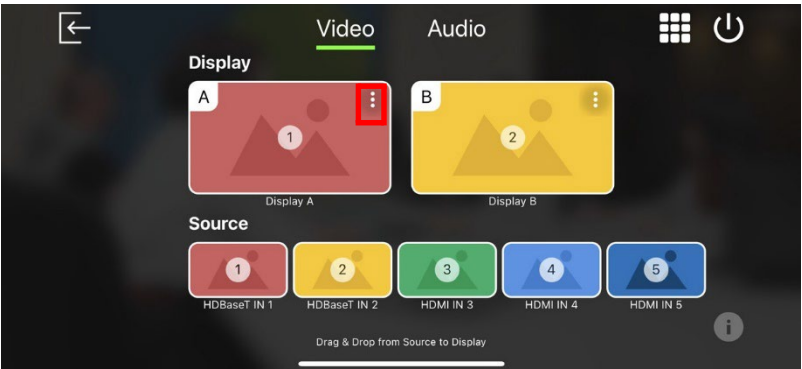
2. これで、ディスプレイAにHDBaseT Inのコンテンツが表示されるようになります。



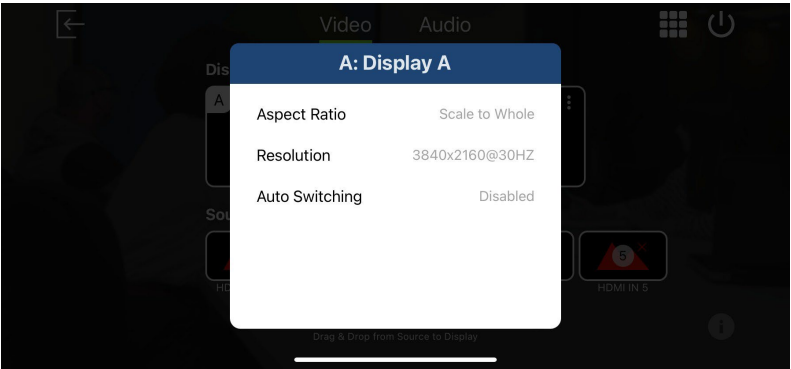
ディスプレイの機能と設定

ライブに移動したり、マルチビューモードレイアウトを有効にしたり、選択したディスプレイのディスプレイ設定を定義したりするには、次の手順に従って操作を行ってください。

- 1. 選択したディスプレイの右上隅にある  をタップしてください。



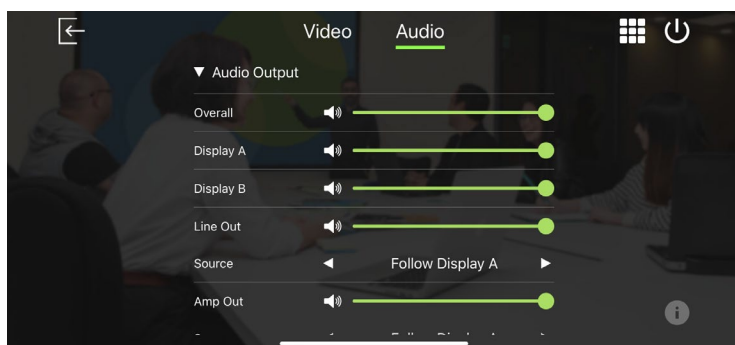
- 2. 下図のような画面が表示されます。



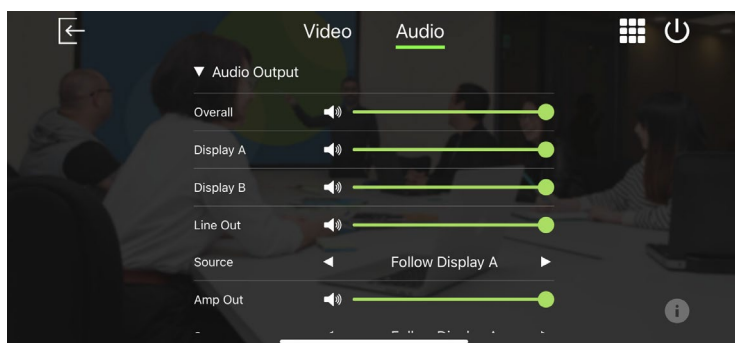
システム設定	説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。	
解像度	ディスプレイデバイスの解像度とリフレッシュレートの設定を選択します。この項目は、ディスプレイがVP3520Iに接続されている場合にのみ使用できます。

アスペクト比	◆ スケール: ディスプレイの四辺にぴったり合うようにビデオを拡張します。 ◆ 自動調整: コンテンツをカットせずに、ディスプレイに合わせてビデオを比例的に調整します。これにより、画面の上下または左右のいずれかに何らかの空白が残る場合があります。 ◆ 自動カット: ビデオをディスプレイいっぱいに合わせて比例的に拡大/縮小します。表示範囲外になったコンテンツは切り捨てられます。
自動切替	ディスプレイデバイスの自動切替を 無効 /有効にします。
ミラーモード	ディスプレイBのミラーモードのON/OFFを切り替えます。接続された各ディスプレイは相互にミラーリングし、異なる設定を取ることはありません。チェックボックスをクリックして有効にすると、ディスプレイAの設定がディスプレイBに自動的に適用されます。 注意: この設定は、ディスプレイBでのみ使用できません。

オーディオパネル



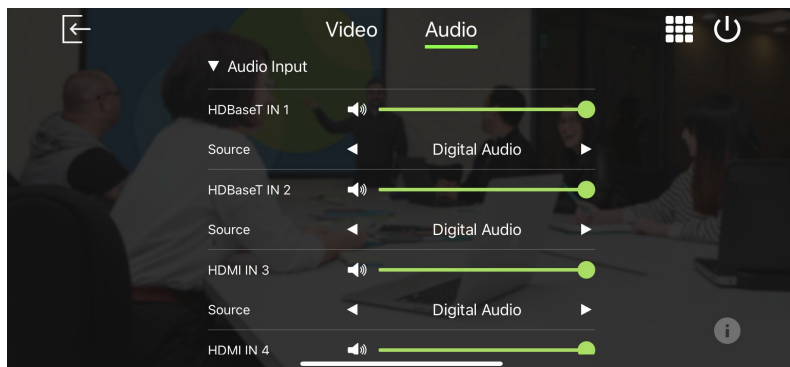
オーディオ出力設定



システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。			
オーディオ出力	全体	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	スピーカーの音量を設定します VP3520Iに接続し、  をタップすると、ミュートにしたりミュートを解除したりします。
	ディスプレイA	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているディスプレイAの音量を設定します。  をクリックすると、ミュートにしたりミュートを解除したりします。
	ディスプレイB	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているディスプレイBの音量を設定します。  をタップすると、ミュート/ミュート解除します。

ライン出力	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520のオーディオ出力ポートに接続されている独立スピーカーの音量を設定します。  をタップすると、ミュートしたりミュートを解除したりします。
ソース	◆ ディスプレイAに従う ◆ ディスプレイBに従う ◆ オーディオ入力	VP3520のオーディオ出力ポートに接続された独立スピーカーの音源を設定します。
アンプ出力	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520のオーディオ出力ポートに接続されている独立スピーカーの音量を設定します。  をタップすると、ミュートしたりミュートを解除したりします。
ソース	◆ ディスプレイAに従う ◆ ディスプレイBに従う ◆ オーディオ入力	VP3520のオーディオ出力ポートに接続された独立スピーカーの音源を設定します。

オーディオ入力設定



システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。			
オーディオ入力	HDBaseT入力1	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているHDBaseTソースの音量を設定します。  をタップすると、ミュートしたりミュートを解除したりします。
	ソース	◆ デジタルオーディオ ◆ エンベデッド・オーディオ入力	VP3520Iに接続されているHDBaseTソースの音源を設定します。 ビデオに付属の音源を使用するには、「 デジタルオーディオ 」を選択してください。独立したオーディオソース（オーディオ入力ポートに接続済み）の音源を使用するには、「 エンベデッド・オーディオ入力 」を選択してください。
	HDBaseT入力2	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているHDBaseTソースの音量を設定します。  をタップすると、ミュートしたりミュートを解除したりします。

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。			
	ソース	◆ デジタルオーディオ ◆ エンベデッド・オーディオ入力	VP3520Iに接続されているHDBaseTソースの音源を設定します。 ビデオに付属の音源を使用するには、「 デジタルオーディオ 」を選択してください。独立したオーディオソース(オーディオ入力ポートに接続済み)の音源を使用するには、「 エンベデッド・オーディオ入力 」を選択してください。
	HDMI入力3	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているHDMI3ソースの音量を設定します。 タップすると、ミュートまたはミュート解除します。🔊
	ソース	◆ デジタルオーディオ ◆ エンベデッド・オーディオ入力	VP3520Iに接続されたHDMI3ソースの音源を設定します。 ビデオに付属の音源を使用するには、「 デジタルオーディオ 」を選択してください。独立したオーディオソース(オーディオ入力ポートに接続済み)の音源を使用するには、「 エンベデッド・オーディオ入力 」を選択してください。
	HDMI入力4	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているHDMI4ソースの音量を設定します。 タップすると、ミュートまたはミュート解除します。🔊

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。			
	ソース	◆ デジタルオーディオ ◆ エンベデッド・オーディオ入力	VP3520Iに接続されたHDMI4ソースの音源を設定します。 ビデオに付属の音源を使用するには、「 デジタルオーディオ 」を選択してください。独立したオーディオソース（オーディオ入力ポートに接続済み）の音源を使用するには、「 エンベデッド・オーディオ入力 」を選択してください。
	HDMI入力5	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520Iに接続されているHDMI5ソースの音量を設定します。 タップすると、ミュートまたはミュート解除します。🔊
	ソース	◆ デジタルオーディオ ◆ エンベデッド・オーディオ入力	VP3520Iに接続されたHDMI5ソースの音源を設定します。 ビデオに付属の音源を使用するには、「 デジタルオーディオ 」を選択してください。独立したオーディオソース（オーディオ入力ポートに接続済み）の音源を使用するに エンベデッド・オーディオ入力 は、「」を選択してください。
	オーディオ入力	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	オーディオ入力ポートに接続されている独立オーディオソースの音量を設定します。 タップすると、ミュート/ミュート解除します。🔊
	マイク	◆ 増加(+) ◆ 減少(-) ◆ ミュート	VP3520のMIC入力ポートに接続されたマイクの音量を設定します。 タップすると、ミュート/ミュート解除します。🔊

システム設定			説明
注意: デフォルト設定は太字で表示されます。			
	ゲイン	◆ +20dB ◆ +30dB ◆ +40dB ◆ +50dB	VP3520に接続されたマイクのMICゲインを設定します。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ また、弊社Webサイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。装置が落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱ってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。火災や電氣的な衝撃の危険性がある場合があります。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者にお問い合わせしてください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - ◆ 電源コードが破損した。
 - ◆ 装置の上に液体をこぼした。
 - ◆ 装置が雨や水にぬれた。
 - ◆ 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - ◆ 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - ◆ 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようにご注意ください。
- ◆ ラックに供給するAC電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスにより登ったりしないでください。

仕様

ビデオ入力	
インターフェース	HDMI Type-A メス × 3(Black) HDBaseT (RJ-45) メス (PoH対応) × 2 (Silver)
最大距離	HDMI: ◆ 4K@60Hz (4:4:4) 最大5 m ◆ 4K@30Hz最大10m ◆ 1080p@60Hz最大15m HDBaseT: ◆ 4K@30Hz(4:4:4)～35m(Cat 6) ◆ 4K@30Hz(4:4:4) 最大40m(Cat 6aまたはATEN 2L-2910 Cat 6) ◆ 1080p@60Hz最大60m(Cat 6) ◆ 1080p@60Hz最大70m(Cat 6a または ATEN 2L-2910 Cat 6)
ビデオ出力	
インターフェース	HDMI Type-A メス × 1(Black) HDBaseT (RJ-45) メス (PoH対応) × 1 (Silver)
最大距離	HDMI: ◆ 4K@60Hz (4:4:4) 最大5 m ◆ 4K@30Hz最大10m ◆ 1080p@60Hz最大15m HDBaseT: ◆ 4K@30Hz最大35m(Cat 6) ◆ 4K@30Hz 最大40m(Cat 6aまたはATEN 2L-2910 Cat 6) ◆ 1080p@60Hz最大60m(Cat 6) ◆ 1080p@60Hz最大70m(Cat 6a または ATEN 2L-2910 Cat 6)
ビデオ	
最大解像度	HDMI: 最大4096 × 2160 / 3840 × 2160 @ 60Hz (4:4:4) HDBaseT: ◆ 最大4096 × 2160/3840 × 2160@60Hz (4:2:0) ◆ 最大4096 × 2160 / 3840 × 2160 @30Hz (4:4:4)
規格準拠	HDMI、4K HDR HDCP 2.2準拠、CEC
オーディオ	

出力	ライン出力(アンバランス):3極着脱式ターミナルブロック×1 デジタルオーディオ:同軸×1 アンプ出力:4極着脱式ターミナルブロック×1、ステレオ出力 10 W/チャンネル、4Ω、1kHz、0.1%THD
入力	ステレオオーディオ(HDMI/HDBaseT):ミニステレオジャック メス×1 (Green) マイク:3極着脱式ターミナルブロック×1(ファンタム電源選択可能)
制御	
RS-232C	DB-9 メス×1(Black)、VPデバイス制御&設定 3極着脱式ターミナルブロック×1、AVデバイス制御
IR	ミニステレオジャック メス×1(Black)、VPデバイス制御 2極着脱式ターミナルブロック×1、AVデバイス制御
イーサネット	RJ-45 メス×1(Silver)、PLinkプロトコル対応
インターフェース	
リレー	2極着脱式ターミナルブロック×2
スイッチ	
電源	プッシュボタン×1(LED:Green/Orange) スライドスイッチ×1(+48V ファンタム電源)
ビデオ入力 ポート選択	プッシュボタン×5(LED:Green)
ビデオ出力 ポート選択	プッシュボタン×2(LED:Orange)
選択	マイク:調整ツマミ×1 ボリューム:調整ツマミ×1 モード/ロック解除:プッシュボタン×1 ファンクションキー:プッシュボタン×4
EDID 設定	EDIDモード:ATENデフォルト/ディスプレイA/リミックス
コネクタ	
電源	3極AC電源ソケット×1
消費電力	AC110V:48.2W/449BTU 注意:VP3520でPoH(各ポート最大10W)とアンプ出力(最大20W)を使用すると、AC110Vの最大消費電力は98.2Wとなります。 AC220V:47.5W/446BTU 注意:VP3520でPoH(各ポート最大10W)とアンプ出力(最大20W)を使用すると、AC220Vの最大消費電力は97.5Wとなります。

動作環境	
動作温度	0～40℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル
重量	3.80kg(8.37 ポンド)
サイズ (W×D×H)	43.24×27.23×4.40cm(17.02×10.72×1.73 インチ)
入力解像度	
	ビデオDCC
	640×480 @ 60 Hz
	640×480 @ 67 Hz
	640×480 @ 72 Hz
	640×480 @ 75 Hz
	720×400 @ 70 Hz
	800×600 @ 56 Hz
	800×600 @ 60 Hz
	800×600 @ 72 Hz
	800×600 @ 75 Hz
	1024×768 @ 60 Hz
	1024×768 @ 70 Hz
	1024×768 @ 75 Hz
	1280×800 @ 60 Hz
	1280×1024 @ 60 Hz
	1280×1024 @ 75 Hz
	1400×1050 @ 60 Hz
	1440×900 @ 60 Hz
	1600×1200 @ 60 Hz
	1680×1050 @ 60 Hz
	1920×1080@60Hz
	1920×1200@60Hz

	1920 × 1200@60Hz(低減ブランキング)
	1080p@60Hz
	480p@60Hz(4:3)
	480p@60Hz(16:9)
	720p@60Hz
	1080i@60Hz
	640 × 480@60Hz(4:3)
	576p@50Hz(4:3)
	576p@50Hz(16:9)
	720p@50Hz
	1080i@50Hz
	1080p@50Hz
	1080p@24Hz
	1080p@25Hz
	1080p@30Hz
	1080p@120Hz
	1080p@240Hz
	3840 × 2160p@24Hz
	3840 × 2160p@25Hz
	3840 × 2160p@30Hz
	3840 × 2160p@50Hz
	3840 × 2160p@60Hz
	4096 × 2160p@24Hz
	4096 × 2160p@25Hz
	4096 × 2160p@30Hz
	4096 × 2160p@50Hz
	4096 × 2160p@60Hz
	3840 × 2160p@50Hz(4:2:0)
	3840 × 2160p@60Hz(4:2:0)
	4096 × 2160p@50Hz(4:2:0)
	4096 × 2160p@60Hz(4:2:0)